

○第二類

○第一章 位階 勳章 褒賞

第四十九 勳章

〔一〕勳章佩用式追加 明治二十二年十月二日公布 勅令第百八號

朕勳章佩用式追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十月一日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆

勅令第百八號

明治二十一年^{十一月}勅令第七十六號勳章佩用式第一條ニ左ノ但書ヲ追加ス
但菊花章ヲ賜ヒタル者ハ旭日桐花大綬章瑞寶一等章ヲ併セ佩ルコトヲ得

第五十 金鷄勳章創設武功拔群ノ者ニ授與ス 明治二十三年二月十一日 詔勅

●詔勅

朕惟ミルニ

神武天皇皇業ヲ恢弘シ繼承シテ朕ニ及ヘリ今ヤ寛カニ登極紀元ヲ算スレハ二千五百五十年ニ達セリ朕此期ニ際シ

勅令第七十六號
八初編第四
十二ノ三項ニ
掲ク

天皇踐定ノ故事ニ徴シ金鷄勳章ヲ創設シ將來武功拔群ノ者ニ授與シホク
天皇ノ威烈ヲ光ニシ以テ其忠勇ヲ獎勵セントス汝衆庶此旨ヲ體セヨ

明治二十三年二月十一日

奉勅

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

〔一〕金鷄勳章ノ等級製式佩用式 明治二十三年二月十一日公布

勅令第十一號

朕金鷄勳章ノ等級製式佩用式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年二月十一日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

勅令第十一號

一金鷄勳章

功一級ヨリ功七級ニ至ル武功拔群ナル者ニ賜フ

金鷄勳章製式	
功一級章	功四級章
章 金徑二十五分	章 金徑一寸五分
綬 幅 二寸六分	綬 幅 一寸二分
鷄金地劔線紫白淡藍色佛 絲依柄濃藍色佛絲依牙銀 地黃紅色佛絲依光線紅色 佛絲依 緞地綠雙線白	鷄金地劔線紫白淡藍色佛 絲依柄濃藍色佛絲依牙銀 地黃紅色佛絲依光線紅色 佛絲依 緞地綠雙線白

- 金鷄勳章佩用式
- 一 功一級章ハ大綬ヲ以テ左肩ヨリ右脇ニ垂レ其副章ヲ右肋ニ佩フ
 - 二 功二級章ハ左肋ニ佩ヒ其副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
 - 三 功三級章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

同 副章	功二級章	同 副章	功六級章	功七級章
章 金徑三十	章 金徑一寸八分	章 金徑一寸八分	章 金長徑一寸七分	章 銀長徑一寸七分
綬 幅 一寸二分	綬 幅 一寸二分	綬 幅 一寸二分	綬 幅 一寸二分	綬 幅 一寸二分
鷄金地劔線紫白淡藍色佛 絲依柄濃藍色佛絲依牙銀 地黃紅色佛絲依光線紅色 佛絲依 緞地綠雙線白	鷄金地劔線紫白淡藍色佛 絲依柄濃藍色佛絲依牙銀 地黃紅色佛絲依光線紅色 佛絲依 緞地綠雙線白	鷄金地劔線紫白淡藍色佛 絲依柄濃藍色佛絲依牙銀 地黃紅色佛絲依光線紅色 佛絲依 緞地綠雙線白	鷄金地劔線紫白淡藍色佛 絲依柄濃藍色佛絲依牙銀 地黃紅色佛絲依光線紅色 佛絲依 緞地綠雙線白	鷄金地劔線紫白淡藍色佛 絲依柄濃藍色佛絲依牙銀 地黃紅色佛絲依光線紅色 佛絲依 緞地綠雙線白

第二類 第一章 位階 勳章 褒賞

四 功四級章以下ハ小綬ヲ以テ左助ニ佩フ
(章及章綬ノ圖略之)

第五十一 帝國憲法發布記念章制定 明治二十二年八月二日公布
勅令第三百三號

朕帝國憲法發布記念章制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年八月二日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第三百三號

第一條 大日本帝國憲法發布記念章ハ金銀ノ兩種トス

第二條 記念章ヲ頒賜スルハ憲法發布式ニ關リタル親王以下ノ諸員ニ限ル下ヲ除ク

第三條 記念章ノ圖式左ノ如シ

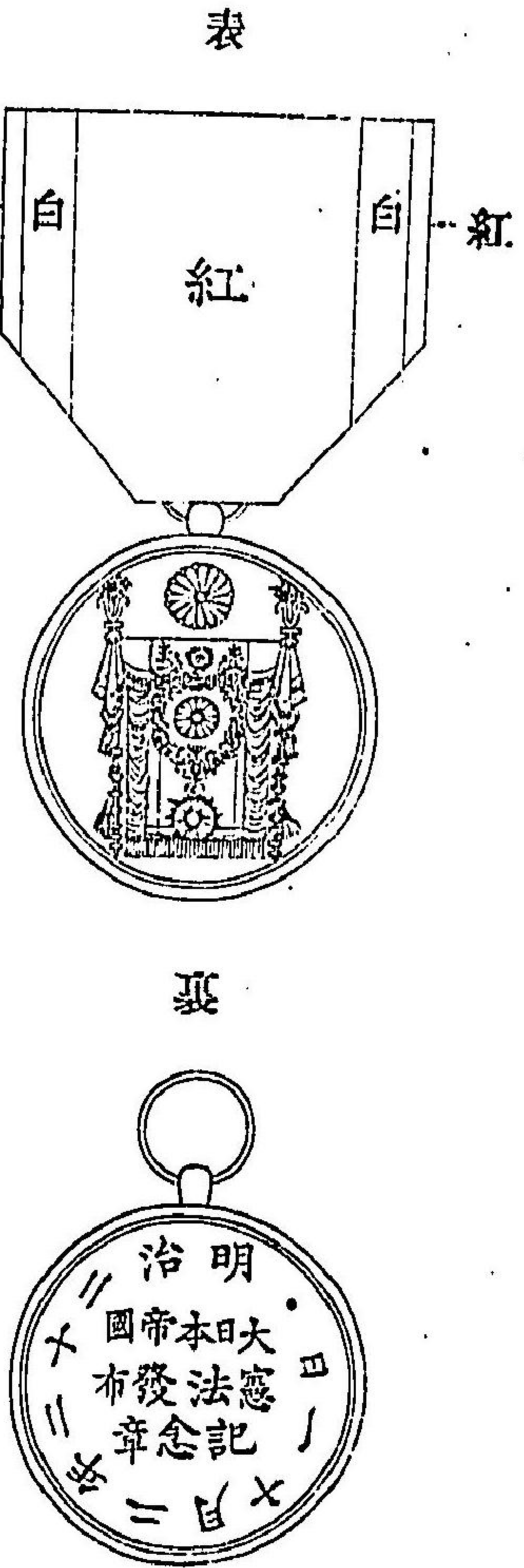
章 圓形徑九分餘金若クハ銀
輪廓内表面ニ菊御紋ト高御座壇大勲位菊花頸飾章ノ圖裏面ニ明治
二十二年二月十一日大日本帝國憲法發布記念章ノ二十三字ヲ镌ス

環 圓形金若クハ銀

綬 幅一寸二分旭日桐花章ノ綬ヲ用フ

第四條 記念章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルヲ許ス其ノ之ヲ沒收スルノ
事項ハ明治十四年第六十三號布告褒章條例ニ依ル

記念章ノ圖



佩用式

- 一 綬ヲ用テ左胸ニ佩フ
- 一 記念章ヲ四等以下ノ勳章若クハ記章褒章ト併佩スル時ハ勳章ノ左記章褒章ノ右ニ列シテ佩フヘシ

第五十二 褒章條例中改正 明治二十三年五月二日公布
勅令第七十二號

第二類 第一章 位階 勳章 褒賞

朕褒章條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年四月三十日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

勅令第七十二號

褒章條例第一條左ノ通改正ス

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者又ハ德行卓絶ナル者孝子須孫節婦後僕ノ類又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者山ノ河ノ榮ニ修路ノ煩ヲ云フヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム二十三年七月十六日勅令第百二十六號同ノ事務ニ勤勉シ勞効顯著ナル者ノ十八字ヲ加フ

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者ニ賜フモノトス同上勅令ヲ以テ著明ナル者ノ下ニ前同上ノ如キ十八字ヲ加フ

〔一〕金銀木杯金圓賜與手續中追加明治二十四年二月二十日勅令第一號

明治十六年三月三太政官第十七號遠金銀木杯金圓賜與手續中左ノ追加ス

十六年第十七號公達八第四

十六年第四項二掲ク

第三條及第四條中勅委任官ノ下ニ「委任官以上ノ待遇ヲ受クル者」ノ十三字及華族ノ戸主ノ下ニ「其祖父母父母妻孀長子孫及其妻」ノ十四字ヲ加フ

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條 外國人ニ金銀木杯金圓又ハ褒狀褒詞ヲ賜フヘキ者アルトキハ總テ内國人ノ例ニ準スト雖モ公使館員及帝室ノ貴賓ニ係ルトキハ外務大臣ヨリ賞勳局總裁ニ申陳シ授與ノトキハ亦同大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ

〔二〕圖書諸器物等寄附スル者賞與方明治二十二年四月十八日勅令第十五號ヲ以テ明治十年十月太政官達第七十七號同十一年四月同第十三號ヲ廢セラレタルヲ以テ自今各官廳へ圖書諸器物等寄附シ若クハ官費支辨ノ事業ニ對シ金銀其他ノ物件ヲ寄附スル者アルトキハ之ヲ受領シタル官廳ヨリ本人所在ノ地方廳へ通知可相成ニ付右通知ヲ受ケタルトキハ明治十六年第一號布告及同年太政官第十七號達ニ據リ取計フヘシ

十六年第一號布告八第四十七號一第四十七項二掲ク

第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤

●沿革要領追加

明治二十二年十二月勅令第三百三十三號ヲ以テ傷痍ヲ受ケ文官ニ任シタル武官ノ恩給支給方ヲ定ム○同月宮内省達第二十四號ヲ以テ宮内省准官吏恩給例ヲ定ム○同月宮内省達第二十五號ヲ以テ宮内省官吏恩給例第六條第七條ヲ改正ス○二十三年六月法律第四十三號ヲ以テ官吏恩給法ヲ制定ス○同日法律第四十四號ヲ以テ官吏遺族扶助法ヲ定ム○同月法律第四十五號ヲ以テ軍人恩給法ヲ定ム○同月勅令第九十八號ヲ以テ文官判任以上退職賜金ヲ公布ス○同年七月勅令第百二十五號ヲ以テ官吏遺族扶助法納入金規則ヲ定ム○同年八月勅令第百六十二號ヲ以テ三等郵便局及電信局長手當金並退官死亡賜金ヲ定ム○同月宮内省達第十六號ヲ以テ宮内省准官吏恩給例同遺族扶助例ヲ定ム○同

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤

年十月法律第九十號ヲ以テ市町村立小學校退隱料及遺族扶助料法ヲ公布ス○同月法律第九十一號ヲ以テ公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ヲ頒布ス

第五十三 官吏恩給法 明治二十三年六月二十一日公布 法律第四十三號

朕官吏恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

- 内閣總理大臣伯爵山縣有朋
- 内務大臣伯爵西鄉從道
- 司法大臣伯爵山田顯義
- 大藏大臣伯爵松方正義
- 陸軍大臣伯爵大山 巖
- 遞信大臣伯爵後藤象二郎
- 外務大臣子爵青木周藏
- 海軍大臣子爵樺山資紀
- 文部大臣 芳川顯正
- 農商務大臣 陸奥宗光

法律第四十三號

官吏恩給法

第一條 文官判任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス

- 一 年滿六十歳ヲ超エ退官ヲ許シタルトキ
- 二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ
- 三 廢官廢廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ

第三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ヲ給ス

- 一 公務ニ因リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ
- 二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

第四條 滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラズ恩給ヲ給ス

第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以

後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス

非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

實際官及領事貿易事務官等ノ恩給ハ其官等ニ對スル普通文官ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

恩給年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷痍疾病引續キ重症ニ趨キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ査覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二個年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三個年

第七條 在官年數ハ判任官以上初任ノ月ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス

明治四年八月以前ヨリ任官セラレタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ掲クル者退官スルトキハ明治四年七月以前ノ勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第八條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ

一 判任以上出仕官ニ在ルノ月數

二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數

三 從軍年加算ノ年數

四 非職及休職中ノ月數

五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數

六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内判任官以上在官中ノ月數

第九條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ

一 年齡二十歲未滿者ノ在官月數

二 高等官試補及判任官見習中ノ月數

三 郡區書記ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數

四 御用掛履等外出仕勤仕ノ月數

五 第八條第二ニ掲クル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數

六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數

第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス

第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在リハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ増加セス

第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス

一 判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス

二 公權ヲ停止セラレタルトキ

第十三條 年齡未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス

第十四條 政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判

任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ナキモノトス但郡區書記ハ此限ニアラス

商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限り退官又ハ罷免現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得

第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 恩給ノ支給ハ本屬長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ六個月以內ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷痕疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪エルト否ラサルト

第十八條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明治十七年達官吏恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二十一條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス
從前ノ命令ニシテ此法律ニ牴觸スルモノハ總テ廢止ス
〔一〕官吏恩給法施行規則 明治二十三年七月二日 閣令第三號
官吏恩給法施行規則左ノ通定ス

官吏恩給法施行規則

第一章 恩給ノ請求

第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ提出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ提出スヘシ

第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ提出スヘシ

第三條 恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在官中履歷書

二 市町村長ノ證明シタル戸籍謄本

但官吏恩給法第十四條第二項ニ掲ケタル者ハ之ヲ添付スルニ及ハス

第四條 公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其事實ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ

一 現認證書又ハ之ヲ謄スル公文ノ寫若クハ口供書
二 醫師ノ診斷證書

第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ査覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計以書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ提出スヘシ

各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ提出スヘシ

第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 恩給ノ支給

第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三個月分ヲ大藏省ヨリ本人居住地ノ地方廳ヲ經テ支給ス但權利消滅ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス

第八條 恩給ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ恩給證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第九條 恩給ヲ受クル者他府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ從來ノ居住地ノ地方廳及轉籍若クハ寄留地ノ地方廳ニ其旨ヲ届出ヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ大藏省ニ通知シ各廳間互ニ其者ニ係ル恩給支給方ノ受領ヲ爲スヘシ

大藏省ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ内閣恩給局ニ通知スヘシ

第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受ケタルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキ

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤

二十三年大藏省令第二十四號(本號二項) 參照

ハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三 公債ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監禁ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期満限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第十一條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲クル月俸トハ明治四年六月東京淺草米原ノ平均相場ニ依リ當時ノ官職一箇月分ニ相當スル金額トス

第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲クル最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ等差ハ左ノ如シ

- 第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
- 第二項 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
- 第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
- 第四項 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
- 第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三
- 第六項 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

傷痕疾病ノ等差ハ明治十八年逓文官傷痕疾病等差例ニ依ル

第三章 恩給ノ停止

第十三條 恩給ヲ受クル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監禁ニ付セラレタルトキハ其確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニハ本人恩給ノ支給ヲ受ケタル地方廳名及俸給ノ支給ヲ始ムル日(解任ノトキハ支給ヲ終リタル日)ヲ付記スヘシ

第十五條 恩給ヲ受クル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ地方廳ニ届出ヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ權利ナキトキ

ハ死去ノ届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ返納スヘシ

第十六條 大藏省ニ於テ第十三條第十四條第十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ内閣恩給局ニ通知シ且第十三條第十四條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ通知シテ其恩給ノ支給ヲ停止シ又ハ復給セシムヘシ

地方廳ニ於テ此通知ヲ受ケタルトキ其恩給ヲ剝奪スヘキモノハ恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第四章 雜則

第十七條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申出ヘシ此場合ニ於テ恩給局ハ恩給證書ノ謄本ヲ作り地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書同一ノ効力アルモノトス

第十八條 恩給ヲ受クル者改氏名シタルトキハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ地方廳ハ恩給證書ノ裏面ニ其事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上本人ニ下付シ其旨ヲ内閣恩給局及大藏省ニ通知スヘシ

第十九條 明治十七年逓文官恩給令ニ依リ恩給ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

- 一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ
- 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ
- 三 改氏名又ハ他府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキ

第二十條 官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

第二十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

(二) 恩給及扶助料每期受領ノトキ證書差出方 明治二十三年十月一日 大藏省令第二十四號

本年法律第四十三號第四十四號第四十五號ニ據リ恩給及扶助料ヲ受クルモノハ每期受領ノトキハ本人生存證書ヲ恩給證書ニ添ヘ差出スヘシ

〔三〕官吏恩給法施行規則及官吏遺族扶助法施行規則ニ依リ差出スヘキ在官年數及恩給扶助料年額計算書式 明治二十三年七月二十四日

官吏恩給法施行規則第五條及官吏遺族扶助法施行規則第八條ニ依リ差出スヘキ在官年數及恩給扶助料ノ年額計算書ハ左ノ書式ニ準據スヘシ

但明治十七年達官更恩給令ニ依リ恩給及扶助料ヲ請求スル者ノ計算書ハ明治十八年達官更恩給令附則第三書式ニ依ルヘシ

第一書式

在官年數及恩給年額計算書										
元官名 位勳爵 氏 名										
何年何月生 明治何年何月 何年何箇月										
明治四年	八月	一日	七月以前ヨリ勳爵	官						何年何箇月
同何年	何月	何日	任	何官						何年何箇月
同何年	何月	何日	何々ニ依リ退官							何年何箇月
同何年	何月	何日	官更恩給法第九條第一乃至第五ニ當リタル由ヲ記載ス		除					算
同何年	何月	何日	任	何官						計 何年何箇月

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤

從軍年										
同何年	何月	何日	任	何官						何年何箇月
同何年	何月	何日	非	職						何年何箇月
同何年	何月	何日	何々ニ依リ退官							何年何箇月
同何年	何月	何日	内國何港出發		(外國戰役ノ例) 加算					
同何年	何月	何日	内國何港歸著		何々從軍 何年					
同何年	何月	何日	戰地ニ臨ミ		何々從軍 加算 何年					
同何年	何月	何日	戰地ヲ退ク		計何年					
通計何年退官現時俸給年額金何圓ノ二百四十分ノ若干										
(恩給年額ト增加恩給年額トヲ合セタル金額ノ四分ノ一)										
恩給年額金何圓										
傷痍(疾病)第何項恩給最下金額何圓ノ十分ノ若干										
增加恩給年額金何圓										
右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也										
明治何年何月										
(取調主任) 官 氏 名 印										
交際官及領事貿易事務官等ハ恩給年額ノ肩書俸給ノ上ニ(勅任)奏任(判任)何等ニ對スル普通文官ノ文字ヲ加フヘシ 第二第四書式モ亦同シ										
非職滿期退官ノ者ハ恩給年額ノ肩書通計何年ノ下(退官現時)ヲ在職最終ト記スヘシ 第二書式モ										

亦同

扶助料年額計算書(添付ノトキハ年數計算ノ末欄及通計何年ノ下(退官)ノ文字ヲ死去ト記シ附加恩給及毎期給額等ハ記載スルニ及ハス)

第二書式 恩給ヲ受ケタル後再ヒ恩給ヲ請求シタル者ニ用ユ

在官年數及恩給年額計算書		元官名 位勳爵 氏 名
年月日任免ノ書式ハ 第一書式ニ依ル	何年何箇月	何年何月生 明治何年何月 何年何箇月
右退官ノ節受ケタル恩給年額金何圓	計	何年何箇月
年月日任免ノ書式ハ 第一書式ニ依ル	何年何箇月	計
通計何年退官現時俸給年額金何圓ノ二百四十 分ノ若干	何年何箇月	何年何箇月
恩給年額金何圓	每期給額	金何圓何拾何錢
前ノ恩給年額ニ比較シ金何圓増	明治何年何月ノ給額金何圓何拾何錢 (初期)	給額
右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也	明治何年何月	(取調主任) 官 氏 名印

第三書式 恩給ヲ受ケタル者死去ノ後扶助料ヲ請求シタル者ニ用ユ

扶助料年額計算書

元官名 故位勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母) 氏 名	何年何月生 明治何年何月 何年何箇月
恩給年額金何圓ノ三分ノ一(三)	每期給額
扶助料年額金何圓	金何圓何拾何錢
右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也	明治何年何月ノ給額金何圓何拾何錢 (初期)
明治何年何月	給額
(取調主任) 官 氏 名印	

恩給ヲ受クヘキ資格ヲ有シテ死去シタル者ノ遺族ヨリ扶助料ヲ請求シタルトキハ此計算書ノ外第一若クハ第二書式ノ計算書ヲ添付スヘシ

第四書式

一時扶助金計算書

故氏名在官年數	故官位勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母) 氏 名
年月日任免ノ書式ハ 第一書式ニ依ル	何年何箇月
明治何年何月何日 死	計何年何箇月
在職最終俸給年額金何圓ノ百分ノ一金何圓何拾何錢ヲ在官年數ニ乗シタル額	金何圓何拾何錢

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也
明治何年何月

(取調主任) 官氏名印

第五書式

明治四年七月以前ニ係ル在官
年數及恩給計算書

元官名 位勳爵氏名

明治何年何月何日	任	何官
同何年何月何日	任	何官
同四年七月三十日	(任)	何官

何年何箇月

明治四年七月現官等ノ官祿一箇月分

米何石

此金何圓何拾何錢何厘

但明治四年六月東京淺草米度平均相場
一石ニ付金五四九拾六錢六厘六毛

右代金ノ半額金何圓何拾何錢何厘ヲ在官何年ニ乘シタル額

金何圓何拾何錢何厘

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

明治何年何月

(取調主任) 官氏名印

● 伺指令

● 官吏受恩給者ノ件ニ付照會回答

明治二十三年八月十六日
(神奈川縣)照會

官吏恩給注施行規則第九條第三項ニ地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ大藏省ニ通知シ各廳間互ニ其者ニ係
ル恩給支給方ノ受給ヲ爲スヘシト有之本項ニ據レハ恩給ヲ受ケタル者轉籍若クハ寄留スルトキハ受恩給者從來居住ノ
地方廳及轉籍若クハ寄留地ノ地方廳ヨリ共ニ御省へ通報可致モノ、如クニ候得共右ハ甲乙兩廳間ニ於テ恩給支給方
ノ受給ヲ爲シタル以上ハ其籍任地即チ引續ヲ爲シタル地方廳ヨリ御省ニ通知シ引續ヲ受ケタル官廳ニ於テハ通報不
致候テ可然候ニ候哉

(大藏省國債局)回答 明治二十三年八月二十五日

御見込ノ通ニテ可然存候

第五十四 官吏遺族扶助法

明治二十三年六月二十一日公布
法律第四十四號

朕官吏遺族扶助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

- 内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
- 内務大臣 伯耆西郷從道
- 司法大臣 伯耆山田顯義
- 大藏大臣 伯耆松方正義
- 陸軍大臣 伯耆大山 巖
- 遞信大臣 伯耆後藤象二郎
- 外務大臣 子爵青木周藏

第二類

第二章

恩給及遺族扶助法

退隱料 救恤

海軍大臣子爵樺山資紀
文部大臣 芳川顯正
農商務大臣 陸奥宗光

法律第四十四號

官吏遺族扶助法

第一條 文官判任以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲナスヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此限ニ在ラズ

一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ

二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ

三 恩給ヲ受クル者死去シタルトキ

第二條 文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ

第三條 交際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルトキハ現ニ受クル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ納金ヲ爲スヘシ

政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ノ俸給及兼官ニ依テ受クル加俸ニ對シテハ第二條ノ納金ヲ要セス

第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス

公務ノ爲メ受ケタル傷病ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞動及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病者ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス

扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歲未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第九條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第十條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助

料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未満又ハ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第十二條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三個年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十三條 扶助料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十四條 扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス

- 一 寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
 - 二 孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿チタル月ノ翌月
 - 三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
- 第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但一戸籍内ニ寡

婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルトキハ其間之ヲ給セス

第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス

公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第十七條 在官十五年未満ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乘シタル額トス但一年未満ノ在官月數ハ計算セス

第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタルトスル者ハ六個月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受ケタル者ノ遺族扶助料ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

〔一〕官吏遺族扶助法納金收入規則

明治二十三年七月十四日公布

勅令第二百二十五號

御名 御璽

明治二十三年七月十二日

大藏大臣伯耆松方正義

勅令第二百二十五號

官吏遺族扶助法納金收入規則

- 第一條 本年法律第四十四號官吏遺族扶助法第二條ニ依リ文官判任以上ノ者ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ金庫ニ於テ之ヲ差引ヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナストキハ該官吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ
- 第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ收入官吏ヨリ金庫ヘノ拂込ニ移シテ計算シ直ニ報告書ヲ作り之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ
- 前條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ差引シタル金員ハ納金額表ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ
- 第三條 俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給支給ノトキ之ヲ整理スヘシ
- 免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納人ニ於テ差引スヘシ

二十三年大藏省令第十七號(第百三十三項)參照

〔二〕官吏遺族扶助法施行規則

明治二十三年七月二日

官吏遺族扶助法施行規則左ノ通定ム

官吏遺族扶助法施行規則

第一章 扶助料ノ請求

- 第一條 官吏遺族扶助法第一條第二及第十七條ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料又ハ一時扶助金請求ノ證ト爲スヘシ
 - 第二條 官吏遺族扶助法第一條第三ニ當ル者ノ遺族ハ其恩給證書ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ
 - 第三條 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ニ於テ事實ヲ查察シ其傷病若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診斷書ヲ併セテ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ
 - 第四條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ
 - 第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ
 - 第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其事由ヲ詳記シ癡疾不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ
 - 第七條 扶助料ノ請求書ハ請求者署名シ 後見人アレハ其後 親族二名親族ナキトキハ居住地ノ戶主二名連署シ市町村長ノ奥印ヲ受ケ第一條乃至第六條ニ掲グル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戶籍圖書ヲ添附シ地方長官ニ差出スヘシ
 - 第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ査察ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り地方廳ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭

廿三年內閣訓令第八號(第百三十三項)參照

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤

令書ヲ用ユ

扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 納金ノ徴收

第九條 官吏遺族扶助法第二條ニ掲クル納金ハ俸給支給ノトキ各處ニ於テ之ヲ徴收シテ國庫ニ納ムヘシ

第三章 扶助料ノ支給及停止

第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條第八條第九條及第十條第一第三ノ例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ満チタルトキハ地方廳ニ於テ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其扶助料證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十二條 扶助料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ヲ停止セラレタルトキハ官吏恩給法施行規則第十三條ノ例ニ依ル

第十三條 大藏省ニ於テ第十一條第十二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩給法施行規則第十六條ノ例ニ依ル

第十四條 水火災盜難等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十七條及第十八條ノ例ニ依ル

第十五條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ同令ニ依リ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ場合ニ於テ本則ニ依ル

一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ他府縣ニ轉籍若クハ寄附スルトキ

二十三年大藏省令第二十四號(第五十三ノ二項)參看

省令第十七號
八第百三ノ三
十三ニ掲ク

第十六條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

(三) 官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序心得

明治二十三年七月十八日 大藏省訓令第百十三號 北海道廳府縣出納官吏金庫出納役

本年勅令第百二十五號官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序左ノ通り心得ヘシ

第一條 會計主務官ニ於テ本年大藏省令第十七號ヲ以テ規定シタル書式ノ仕拂命令仕拂請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其集合仕拂命令集合仕拂請求書又ハ金庫所在地外へ送金ヲ要スル重要アル仕拂命令仕拂請求書ニ對シテハ第一號書式ノ領收證書用紙ニ式ノ如ク記入捺印シ之ヲ受取人へ交付スヘシ但此場合ニ於ケル手續ハ本年大藏省訓令第十八號第二十三條ニ同シ

第二條 金庫ニ於テ仕拂命令仕拂請求書ヲ受ケ現金ノ仕拂ヲ執行スルトキハ該仕拂命令仕拂請求書金額ノ内課ニ列記シタル(集合仕拂命令集合仕拂請求書ニ付屬スル金額氏名表中) 國庫納金引去高ヲ捺除シ現金支給高ヲ受取人ニ交付スヘシ(ノ者へ交付スルトキハ即該氏名表金額ノ内課ニ依ル)

右扣除ノ國庫納金引去高ハ普通仕拂ノ順序ニ依リ一旦之ヲ排出シ直ニ之ヲ相當年度ノ歳入ニ振替納付ヲナスヘシ

第三條 金庫ニ於テ前條ノ國庫納金引去高ヲ歳入金ニ振替納付シタルトキハ即日第二號書式ノ國庫納金引去高收入報告書ヲ調製シ收入官吏へ送付スヘシ

第四條 收入官吏ニ於テ歳入ノ測定官ヨリ官吏遺族扶助法ニ據リ收入スヘキ金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ收入簿測定済額ノ欄内へ其金額ヲ登記スヘシ

第五條 收入官吏ニ於テ第三條ノ國庫納金引去高收入報告書ヲ受ケタルトキハ收入簿收入簿額ノ欄内へ其金額ヲ登記スヘシ

第六條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給仕拂ノトキ官吏ノ納金額ヲ差引徴收シタルトキハ第三號書式ノ納金額表ヲ添へ之ヲ其廳ニ於テ普通ノ諸收入ヲ收入スル官吏ニ排込ヘシ

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤

第七條 前條ノ排込ヲ受ケタル收入官吏ハ其排込ヲナシタル收入官吏ニ現金ノ領收証書ヲ交付シ收入辨現金出納簿ノ在
 肥及金庫ヘ排込ノ手續ヲナスヘレ
 第八條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ第六條ノ場合ニ於テハ現金ヲ領收スル收入官吏トシテ總テ其規程ニ依ルモノトス但
 會計規則第三章ニ定メタル收入報告書ヲ差出スニ及ハス
 第一號書式

第 [何] 號	受取人	[何] 廳勤務 何ノ 誰
[某]年度(集合)任排[命令]何[何]號(ノ内)印		
一金貳拾圓也	俸 給	高
内 金拾九圓八拾錢也	現 金 支 給	高
内 金貳拾錢也	國庫納金引去高	
(第[壹]號)(金預氏名表内譯ノ番號ト符合ス)		
右領收候也		
明治何年何月何日	[受取人]	[何] 誰
[何地金庫宛]	[何] 誰	[印]

〔備考〕 集合任排命令集合任排請求書ノ内受取總代人(交付スヘキ分又ハ各廳ニ於テ局(課)員申合セノ上受取總
 代人ヲ選定シタルニ據リ其總代人(任排ノタメ任排命令任排請求書ヲ發シ金庫所在地外へ送金ヲ要スル

分ノ領收証書受取人ノ欄内へハ何廳勤務何ノ誰外何人總代人何ノ誰ト記入スヘシ
 〔第二〕 本書式ニ示サ、ル要部ハ總テ本年大藏省訓令第十八號附屬書式ニ依ルヘシ
 (第一號以下書式略ス)

● 伺指令

● 官吏遺族扶助法國庫納金額ニ付照會回答 明治二十三年七月十八日
 本年法律第四十四號官吏遺族扶助法第二條國庫納金額ニ付疑義左ニ
 一 非職者ハ其非職俸給額ノ百分一ナルヲ將其官等相當ノ俸給額ニ據ル乎
 二 高等官官等俸給附則第二十六條第二十七條等ニ依リ減俸シタルモノハ其減俸額ノ百分一ナルヤ
 (大藏省主計局)回答 明治二十三年七月二十三日
 第一項 前段御見解ノ通
 第二項 御見解ノ通

第五十五 宮内省官吏准官吏恩給例ヲ廢シ更ニ宮内省官吏准官吏恩

給例同遺族扶助例ヲ定ム 明治二十三年八月九日
 宮内省達第十六號
 明治二十年達第二號宮内省官吏恩給例明治二十二年達第二十四號宮内省准官吏恩給例ヲ廢
 シ宮内省官吏准官吏恩給例同遺族扶助例左ノ通相定ム
 明治二十三年八月九日

宮内大臣子爵土方久元

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤 三百六十七

二十年達第二
 號ハ初編第四
 十七ノ四項第
 二年達第二十
 四號ハ本令ニ
 依リ除ク

宮内省官吏恩給例

- 第一條 宮内省官吏判任以上ノ者退官シタルトキハ本例ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ給ス
- 第二條 左ノ事項ハ明治二十三年法律第四十三號官吏恩給法ニ規定ノ條項ヲ適用ス
 - 一 在官滿十五年以上ノ者ニ對シ恩給ヲ給スル場合及其給額
 - 二 傷疾疾病ニ罹リシ者ニ對シ恩給ヲ給スル場合及其給額
 - 三 在官年數ノ計算並明治四年七月以前ノ在官者ニ對スル支給方
 - 四 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ退官シタルトキ支給ノ區別
 - 五 恩給ノ停止及剝奪
 - 六 恩給ヲ受クル資格ノ存否
- 第三條 宮内大臣ノ在職年數ハ國務大臣ノ例ニ依ル
- 第四條 政府ノ文官ヨリ宮内官ニ轉任シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ政府ヲ退キタル後宮内官ニ任シタル者ハ政府ノ判任官以上ニ在リシ月數モ在官年數中ニ通算ス
- 第五條 准官吏宮内省官制ニ於テ特ニ指定シタル准判任以上ヲ云フ以下皆同シヨリ官吏トナリタル者ハ准官吏在官年數五分ノ一ヲ減シテ官吏在官年數ニ通算ス
- 第六條 准官吏ヨリ官吏トナリタル當月ハ官吏在官年數中ニ算入ス
- 第七條 俸給ヲ受ケサル官吏並高等官試補判任官見習補助員顧問員評議員又ハ御用掛勤務殿掌殿部其他何等ノ名稱ヲ附スルモ宮内省官制外ニ屬スル者ニハ恩給ヲ給スルコトナシ

廿三年勅令第
九十八號(第
五十六)號

但高等官試補及判任官見習ノ傷疾疾病ニ對スルモノハ此限ニアラス

- 第八條 恩給ノ支給ハ其所管長所管長ナキ者ハ内事課長ノ證明ニ依リ調査課ノ審査ヲ經テ宮内大臣之ヲ裁定ス
- 第九條 前條ノ裁定ニ服セサル者ハ六箇月以内ニ宮内大臣ニ具狀シ再審査ヲ請求スルコトヲ得
- 第十條 前條再審査ノ請求アルトキ宮内大臣ハ特ニ審査委員ヲ命シ審査ノ上裁決ス此裁決ヲ以テ終結トシ他ニ告訴スルコトヲ得ス
- 第十一條 恩給ハ賣却讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トナスコトヲ得ス違フ者ハ恩給ヲ停止ス
- 第十二條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年ヲ過クレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第十三條 明治二十年達第二號宮内省官吏恩給例ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ其恩給例ニ依ルヘシ但停止及剝奪ハ本例ニ依ル
- 第十四條 判任官以上ノ者在官滿一年以上十五年未滿ニシテ退官シタル者ニハ明治二十三年勅令第九十八號ヲ適用シ一時賜金ヲ給ス
- 宮内省准官吏恩給例
- 第一條 宮内省准官吏宮内省官制ニ於テ特ニ指定シタル准判任以上ヲ云フ以下皆同シノ退官シタルトキハ本例ノ規定スル

所ニ依リ恩給ヲ給ス

第二條 左ノ事項ハ明治二十三年法律第四十二號官吏恩給法ニ規定ノ條項ヲ適用ス

- 一 在官滿十五年以上ノ者ニ對シ恩給ヲ給スル場合
- 二 傷痍疾病ニ罹リシ者ニ對シ恩給ヲ給スル場合
- 三 在官年數ノ計算並明治四年七月以前ノ在官者ニ對スル支給方
- 四 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ退官シタルトキ支給ノ區別
- 五 恩給ノ停止及剝奪
- 六 恩給ヲ受クル資格ノ存否

第三條 准官吏恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官ノ年數トニヨリ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額四百分ノ八十トシ滿十五年以上一年毎ニ四百分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス

非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算ス

恩給年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第四條 官吏ヨリ准官吏トナリタル者通算シテ十五年ニ滿ツルトキハ官吏在官年數ニ五分ノ一ヲ加ヘテ准官吏在官年數ニ通算シ其加算ノ年數並爾後勤續ノ年數ニハ第三條ノ算則

ヲ以テ滿一年毎ニ四百分ノ一ヲ加ヘ加算ノ年數ヲ併セ滿四十年ニ至テ止ム

第五條 官吏滿十五年以上在官ノ後准官吏トナリタル者ハ其准官吏退官ノトキニ於テ准官吏在官年數ノ五分ノ一ヲ減シテ官吏在官年數ニ併算シ官吏恩給支給ノ例ニ依ル

第六條 官吏ヨリ准官吏トナリタル當月ハ官吏在官ノ年數中ニ算入ス

第七條 宮内省官吏恩給例第四條第八條第九條第十條第十一條第十二條ハ本例ニモ適用ス

第八條 准官吏在官滿一年以上十五年未滿ニシテ退官シタル者ニハ明治二十三年勅令第九十八號ヲ適用シ一時賜金ヲ給ス

宮内省官吏准官吏遺族扶助例

第一條 宮内省官吏准官吏判任以上ノ者左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキハ本例ノ規定スル所ニ依リ其遺族ニ扶助料ヲ給ス但第二條ノ納金ヲ爲スヲ要セサル者ノ遺族ハ此限ニアラス

- 一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ
- 二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ
- 三 恩給ヲ受クル者死去シタルトキ

第二條 左ノ事項ハ明治二十三年法律第四十四號官吏遺族扶助法ニ規定ノ條項ヲ適用ス

- 一 寡婦扶助料ノ年額
- 二 扶助料ヲ支給スヘキ者及支給轉級ノ制限
- 三 扶助料ノ廢止停止

- 四 扶助料ヲ受クヘキ資格ノ消滅
- 五 在官十五年未滿ニシテ在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタル者ノ遺族ニ給スル一時扶助金
- 第三條 官吏准官吏判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ内藏寮ニ納ムヘシ
俸給ヲ受ケサル官吏並高等官試補判任官見習補助員顧問員評議員又ハ御用掛勤務殿掌殿部其他何等ノ名稱ヲ附スルモ宮内省官制外ニ屬スル者ハ納金ヲ要セス又兼官ニ依テ受クル加俸ニ對シテハ納金ヲ要セス
- 第四條 扶助料ノ支給ハ本人元所管長所管長ナキ者ハ内事課長ノ申牒ニ依リ調査課ノ審査ヲ經テ宮内大臣之ヲ裁定ス
- 第五條 前條ノ裁定ニ服セサル者ハ六箇月以内ニ宮内大臣ニ具狀シ再審査ヲ請求スルコトヲ得
- 第六條 前條再審査ノ請求アルトキ宮内大臣ハ特ニ審査委員ヲ命シ審査ノ上裁決ス此裁決ヲ以テ終結トシ他ニ告訴スルコトヲ得ス
- 第七條 扶助料ハ賣却讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トナスコトヲ得ス違フ者ハ扶助料ヲ停止ス
- 第八條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ三箇年ヲ過クレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

〔一〕宮内省官吏准官吏恩給例施行規則同遺族扶助例施行規則

明治二十三年十月九日
宮内省達第二十號

宮内省官吏准官吏恩給例施行規則
宮内省官吏准官吏恩給例施行規則

- 第一條 宮内省官吏恩給例第一條同准官吏恩給例第一條ニ掲ケタル官吏准官吏トハ宮中ニ奉仕スルト省務ニ從事スルトヲ間ハス宮内省ヨリ俸給ヲ給與スル者及皇族職員中宮内省ヨリ俸給ヲ給與スル者ヲ云フ
- 第二條 恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ所管長所管長ナキ者ハ内事課長ニ差出スヘシ但部局ノ廢合ニ當リタルトキハ其事務ノ引續ヲ受ケタル部局長ニ差出スヘシ
- 第三條 恩給請求書ニハ在官中ノ履歴書ヲ添付スヘシ
- 第四條 公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者及恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷病疾病重症ニ赴キタルトキ恩給ヲ請求スル者ニ在テハ履歴書ノ外左ノ書類ヲ以テ其實質ヲ証明スヘシ
一 現認證書又ハ之ヲ証スヘキ公文ノ寫若クハ口供書
一 醫師ノ診斷證書
- 第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル所管長若クハ内事課長ハ查驗ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ第一號第二號第三號ノ書式ニ準據シ請求者ノ在官年數及恩給年數計算書ヲ作り證據書類ヲ添へ調査課ニ回付スヘシ若シ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シテ之ヲ回付スヘシ
- 第六條 調査課長ハ前條所管長若クハ内事課長查驗ノ書類ニ據テ檢案シ宮内大臣ニ具狀ス大臣之ヲ允許シタルトキハ調査課ニ於テ恩給證書ヲ作り所管部局若クハ内事課ヲ經テ之ヲ本人ニ下付ス但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用フ恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ調査課ハ之ヲ内藏寮ニ通知スヘシ
- 第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ前三箇月分ヲ内藏寮ヨリ支給シ受領證ヲ徴ス但資格消滅ノトキ

及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス
恩給ヲ受クル者東京市外ニ居住スルトキハ其恩給金ハ内職寮ヨリ爲換ヲ以テ送付スヘキニ付到達ノ上ハ直ニ受領証ヲ
内職寮ニ郵送スヘシ但受給者所在地ニ爲換ヲ取組ヘキ便宜ナキトキハ其近傍ニ於テ便宜アル地迄爲換ヲ取組送付スル
モノトス

第八條 恩給ヲ受クル者其居住ヲ轉シタルトキハ内職寮ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ内職寮ハ之ヲ調査課ニ通知スヘシ

第九條 宮内省官吏恩給例第二條第五項同准官吏恩給例同條同項ニ當ル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル
一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日
ヲ以テ支給ヲ終ル

二 准判任官以上ニ任シ俸給ヲ受クルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキハ俸給
ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三 公權ヲ停止セラレタルトキハ懲罰ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ
支給ヲ終リ刑期満限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第十條 宮内省官吏恩給例第二條第三項同准官吏恩給例同條同項ニ掲ケル明治四年七月以前ノ在官者ニ對スル支給方ハ
明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一箇月分ニ相當スル金額ヲ準據トシテ支給額ヲ定ムルモノト
ス

第十一條 公務ニ因リ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リシ者ニ給スル最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ等差ハ左ノ如シ

- 一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
- 二 前項ニ準スヘキ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
- 三 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五

四 前項ニ準スヘキ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四

五 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三

六 前項ニ準スヘキ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

傷病疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷病疾病等差例ヲ適用ス
第十二條 恩給ヲ受クル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ調査課ニ届出恩給證書ヲ返納スヘシ又第十三條ノ場合ニ於テハ
裁判宣告書ノ寫ヲ添ヘ家族ヨリ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ調査課ハ直ニ之ヲ内職寮ニ通知スヘシ

第十三條 恩給ヲ受クル者刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ其確定裁判ノ宣告アリシコトヲ
知リタルトキハ裁判所ノ通知本人家族 調査課ヨリ内職寮ニ通知スヘシ内職寮ハ之ニ依テ恩給ノ支給ヲ停止シ又ハ復給
スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其恩給ヲ剝奪スヘキモノハ其旨ヲ調査課ヨリ本人ニ通知シテ恩給證書ヲ返納セシムヘシ

第十四條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ其事由ヲ具シテ調査課ニ申出ヘシ此場合ニ於テ調査課ハ恩給
證書ノ謄本ヲ作り本人ニ下付スヘシ

前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ効力アルモノトス

第十五條 恩給ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ恩給證書ヲ添ヘ調査課ニ届出スヘシ調査課ハ恩給證書ノ裏面ニ其事
ヲ記シ調査課長署名捺印ノ上本人ニ下付シ之ヲ内職寮ニ通知スヘシ

第十六條 明治二十年達第二號宮内省官吏恩給例ニ依リ恩給ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

- 一 死去又ハ資格消滅又ハ停止ノトキ
- 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ
- 三 改氏名又ハ居住ヲ轉シタルトキ

二十年宮内省
達第二號ハ初
編第四十七ノ
四項ニ掲ク

宮内省官吏准官更遺族扶助例施行規則

- 第一條 宮内省官吏准官更遺族扶助例第一條ニ掲ケタル官吏准官更ハ宮内省ヨリ俸給若クハ恩給ヲ給スル者ヲ云フ皇族職員モ亦同シ
- 第二條 扶助料ヲ請求スルトキハ其請求書ニ署名シ後見人アレハ其後見人署名スヘシ親族ニ名親族ナキトキハ他ノ戸主ニ名連署シ其市町村長ル地方ニ於テハ區戸長ヘシ
- 第三條 扶助料ヲ受ケル者死去シ若クハ資格消滅シ若クハ支給期限ノ満チタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ添ヘ請求ノ證ト爲スヘシ
- 第四條 公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ添ヘ請求ノ證ト爲スヘシ
- 第五條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未満ノ者又ハ廢疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキ又ハ孤兒二十歳ニ滿ツルモ廢疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキトキハ其事由ヲ詳記シ廢疾不具ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ
- 第六條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル所管長若クハ内中課長ハ査覈ノ上第四號第五號書式ニ準據シ扶助料年額ノ計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ調査課ニ回付スヘシ
公務ノ爲メ受ケタル傷病ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞動及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ因リ傳染病者ニ接シ該病者ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ遺族ヨリ扶助料ヲ請求セントキハ所管長若クハ内中課長ニ於テ其傷病若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類ヲ併セテ調査課ニ回付スヘシ
- 調査課長ハ所管長若クハ内中課長査覈ノ書類ニ據テ檢按シ宮内大臣ニ具狀ス大臣之ヲ允許シタルトキハ調査課ニ於テ

- 扶助料證書ヲ作リ所管部局若クハ内中課ヲ經テ之ヲ本人ニ下付ス但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用フ
- 扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ調査課ハ之ヲ内職寮ニ通知スヘシ
- 第七條 遺族扶助例第三條ニ掲ケタル金ハ俸給支給ノトキ内職寮ニ於テ之ヲ徵收ス但別ニ會計ヲ設ケル部局ハ其部局ニ於テ之ヲ徵收シ内職寮ニ送付スヘシ
俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次回ノ俸給支給ノトキ之ヲ整理スヘシ
免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納ムニ於テ差引スヘシ
- 第八條 扶助料ノ支給ハ宮内省官吏准官更遺族扶助例施行規則第七條第九條第一項第三項ノ例ニ依ル
- 第九條 扶助料ヲ受ケル者其居住ヲ轉レタルトキハ内職寮ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ内職寮ハ之ヲ調査課ニ通知スヘシ
- 第十條 扶助料ヲ受ケル者死去シ若クハ資格消滅シ若クハ支給期限ノ満チタルトキ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ其扶助料證書ヲ調査課ニ送納スヘシ
前項ノ場合ニ於テ調査課ハ直ニ之ヲ内職寮ニ通知スヘシ
- 第十一條 扶助料ヲ受ケル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ヲ停止セラレタルトキハ宮内省官吏准官更遺族扶助例施行規則第十三條ノ例ニ依ル
- 第十二條 水火災盜雜等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受ケル者氏名ヲ改メタルトキハ宮内省官吏准官更遺族扶助例施行規則第十四條第十五條ノ例ニ依ル

第一號書式

在官年數及恩給年額計算書

元官名	位勳爵	氏名
何年何月生	明治何年何月	
何年何月生	何年何月	

明治四年	八月	一日	七月以前ヨリ勤官
同何年	何月	何日	任何官
同何年	何月	何日	何々ニ依リ退官
同何年	何月	何日	除算スヘキ事由ヲ記
同何年	何月	何日	任何官
同何年	何月	何日	任何官
同何年	何月	何日	非
同何年	何月	何日	何々ニ依リ退官
從軍年			
同何年	何月	何日	内國何港出發
同何年	何月	何日	内國何港歸著
同何年	何月	何日	戰地ニ臨ミ
同何年	何月	何日	戰地ヲ退ク
		何々從軍	加算
		何年	計何年
通計何年退官現時俸給年額金額圓ノ二百四十分ノ若干若クハ四百分ノ若干 恩給年額金額圓 毎期給額 金何圓何拾何錢			

傷疾(疾病)等何項恩給最下金額ノ十分ノ若干
 増加恩給年額金額圓
 右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也
 明治何年何月

(取調主任)官氏名印

第二號書式(恩給ヲ受ケタル後再ヒ恩給ヲ請求シタル者ニ用ユ)

在官年數及恩給年額計算書

元官名 位勳爵氏名

何年何月生 明治何年何月

何年何月 何年何月

年月日任免ノ書式ハ 何年何箇月

第一號書式ニ依ル (此年月ハ恩給例ニ依リ通算シタ) 計何年何箇月

右退官ノ節受ケタル恩給年額金額圓 何年何箇月

年月日任免ノ書式ハ 何年何箇月

第一號書式ニ依ル 計何年何箇月

通計何年退官現時俸給年額金額圓ノ二百四十分ノ若干若クハ四百分ノ若干

毎期給額 金何圓何拾何錢

恩給年額金何圓
前ノ恩給年額ニ比較シ金何圓増
右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也
明治何年何月

明治何年何月ノ給額金何圓何拾何錢
(初期給額)
(取調主任)官 氏 名印

第三號書式

明治四年七月以前ニ係ル在官
年數及恩給計算書

元官名
位勳爵 氏 名

明治何年	何月	何日	任	何	官
同何年	何月	何日	任	何	官
同四年	七月	三十日	(任)	何	官

何年何箇月

明治四年七月現官等ノ官祿一箇月分

米何石

但明治四年六月東京淺草米原平均相場
一石ニ付金五圓九拾六錢六厘六毛

此金何圓何拾何錢何厘
右代金ノ半額金何圓何拾何錢何厘ヲ在官何年ニ乘シタル額
金何圓何拾何錢何厘

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

明治何年何月

(取調主任)官 氏 名印

第四號書式(恩給ヲ受ケタル者死去ノ後扶助料ヲ請求シタル者ニ用ユ)

扶助料年額計算書

元官名

故位勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)
氏 名

何年何月生 明治何年何月
何年何箇月

恩給年額金何圓ノ三分ノ一(三)

毎期給額 金何圓何拾何錢

扶助料年額金何圓

明治何年何月ノ給額金何圓何拾何錢
(初期給額)

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

(取調主任)官 氏 名印

明治何年何月

第五號書式

一時扶助金計算書

故官位勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)
氏 名

故氏名在官年數

年月日任免ノ書式ハ
第一號書式ニ依ル

明治何年 何月 何日 死

何年何箇月

計何年何箇月

在職最終俸給年額金何圓ノ百分ノ一金何圓何拾何錢ヲ在官年數ニ乘シタル額
金何圓何拾何錢

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也
明治何年何月

(取調主任)官 氏 名印

第五十六 文官判任官以上退官賜金

明治二十三年六月二十一日公布
勅令第九十八號

朕茲ニ文官判任官以上ノ者退官賜金ノ件ヲ裁可ス
御名 御璽

明治二十三年六月二十日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第九十八號

文官判任以上ノ者在官滿一年以上十五年未滿ニシテ退官シタル者ニハ退官現時ノ俸給半箇月分ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス但非職滿期ニ由リ退官シタル者ハ其在職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給ス

本令施行前ニ滿年賜金若クハ一時賜金ヲ受ケタル者又ハ前項ノ賜金ヲ受ケタル者再ヒ任官シ自後退官シタルトキハ前項ニ掲クル在官年數ヲ其再任ノ日ヨリ起算ス
恩給ヲ受クル者立自己ノ便宜ニ由リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ由リ免官シタル者ニハ本令ノ賜金ヲ給セス

本令ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

〔一〕三等郵便局及電信局長手當並退官死亡賜金ノ件

明治二十三年八月九日
公布

勅令第百六十二號

朕三等郵便及電信局長手當金並退官死亡賜金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月八日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第百六十二號

第一條 三等郵便電信局長三等郵便局長及三等電信局長ハ俸給ヲ給セス年額四百圓以下ノ手當金ヲ給與ス其給與額ハ逓信大臣之ヲ定ム

第二條 三等郵便電信局長三等郵便局長及三等電信局長在官中死亡シタルトキ若クハ廢官廢局ノトキ又ハ滿三年以上勤続シタル者退官セントキハ逓信大臣ニ於テ其勤勞ニ依リ百圓以内ノ金額ヲ給與ス但懲戒處分ニ依リ免官セラレ若クハ刑事裁判ニ依リ官職ヲ失ヒタル者ハ總テ之ヲ給與セス

● 伺指令

● 退官賜金支出方ニ付照會回答 明治二十三年七月十五日
大藏省照會

本年六勅令第九十八號ヲ以テ文官判任以上ノ者退官賜金ノ制被定候ニ付テハ右退官賜金ハ當省所管經費恩賞諸費
文官恩給一時賜金ヨリ夫々移算可相成モノト被存候得共該賜金ハ彼此自ラ性質ノ異ナル所ヨリ移算不相成候ニモ
候ハ、各廳經費中ヨリ支辨スヘキ儀ニ可有之哉

(大藏省同答 明治二十三年七月二十三日)

後段御見解ノ通

● 判任官賜金在官年數積算方ノ問合回答 明治二十三年十月二日
逓信省書記官問合

勅令第九十八號ヲ以テ判任以上文官賜金給與令規定相成候處假令ハ明治十六年十二月以前一箇年未滿ニシテ退官シ

タルモノ又明治二十三年六月以前五箇年未滿ニシテ退官シタルモノ再ヒ任官シタルトキノ如キハ前官後官ノ奉職月
數及年月數ヲ本令第一項在官年數ニ積算シ賜金ヲ給與スヘキ儘トハ存候得共一應及御問合候也
(大藏省主計局回答 明治二十三年十月七日)
御見込ノ通ニテ可然ト存候

第五十七

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

明治二十三年十月三日公布

法律第九十號

朕市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十三年十月二日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
文部大臣 芳川顯正

法律第九十號

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

- 第一條 市町村立小學校ノ正教員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 第二條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス
 - 一 年齢六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ
 - 二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三 廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ
第三條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ヲ給ス

- 一 職務ニ依リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ
- 二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第四條 官吏恩給法第五條第一項第四項第六條第十一條ハ退隱料ニ適用ス
退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數ノ算定ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス

- 一 失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキ
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 四 第二條第二第三條若クハ第七條ニ依リ退隱料ヲ受クル者復タヒ其職務ニ堪フルニ至ルコトアルモ仍府縣知事ヨリ指命セラル、所ノ教職ニ就カサルトキ又ハ第二條第三

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤

ニ依リ退隱料ヲ受クル者府縣知事ヨリ指命セラル、所ノ教職ニ就カサルトキ但其給料ハ退職現時ノ給料ヨリ少額ナラス且年齢未タ六十歳ニ至ラサル場合ニ限ル

五 府縣知事ノ許可ヲ經スシテ公務ニ就キタルトキ

退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其時間退隱料ヲ受クルコトヲ得ス

一 公務ニ就キ退職現時ノ給料額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキ

二 三箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三 公權ヲ停止セラレタルトキ

第六條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第七條 市町村立小學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第三條ニ該當スル者ニ限リ退職現時ノ給料四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第八條 在職滿五年以上十一年未滿ニシテ退職シタル市町村立小學校正教員ハ退職現時ノ給料二箇月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ退職シタル者ハ給料三箇月分ニ當ル金員ヲ給ス

第二條第三條又ハ第七條ニ依リ退隱料ヲ受クル者自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者又ハ前項ノ給與ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル後三箇月内ニ之ヲ請求セサル者ハ前項ノ限ニ在ラス

自己ノ便宜ニ依リ本條第一項ノ給與ヲ受ケサル者他日市町村立小學校正教員ノ職ニ就クトキハ前ノ在職年數ヲ以テ退隱料等ノ給與上ニ關スル在職年數ニ算入スヘキモノトス但其給與ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル後三箇月内ニ之ヲ受ケサルコトヲ申立テサル者ハ本文ノ限ニ在ラス

第九條 退隱料ノ支給及第八條ノ給與ハ市町村長ノ證明ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス
官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退隱料ニ適用ス

第十條 市町村立小學校正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

- 一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ
- 二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ
- 三 退隱料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十一條 官吏遺族扶助法第四條第一項第二項第五條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受ケヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戶籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癡疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十二條 在職十五年未滿ノ市町村立小學校正教員在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタ

ルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職三年未滿ニシテ在職最終ノ給料一箇月分ニ當ル金員トシ三年以後滿一年毎ニ給料年額百分ノ二ニ當ル金員ヲ加フ

第十三條 扶助料及扶助金ノ支給並第八條及第十一條第二項ノ給與ハ市町村長ノ申牒ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス

第十四條 府縣ハ小學校教員恩給基金ヲ備フヘキモノトス

市町村ハ其市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

市町村立小學校正教員ハ其給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス
本條第二項及第三項ノ納金ハ府縣小學校教員恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其利子ヲ以テ退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得サルモノトス

本條第二項及第三項ニ依リ各府縣ニ於テ收入シタル納金額四分ノ一ニ當ル金員ヲ收入年度ノ翌々年度毎ニ國庫ヨリ府縣ニ給與スルモノトス

退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ハ恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘキモノトス

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル

規則ハ文部大臣之ヲ定ム

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル費用ハ總テ府縣ノ負擔トス

第十五條 此法律中第一條乃至第十三條ハ明治二十六年年度ヨリ第十四條ハ明治二十五年年度ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔二〕公立學校職員退隱料及遺族扶助料法 第三十二ニ掲ク

第五十八 軍人恩給法 明治二十三年六月二十一日公布

軍人恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
陸軍大臣 伯爵 大山 巖
海軍大臣 子爵 樺山資紀

法律第四十五號
軍人恩給法

第一章 總則

第一條 陸海軍軍人ニシテ現役ヲ離レタル者ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 陸海軍軍人恩給ハ左ノ六種トス

- 一 退職恩給
- 二 免除恩給
- 三 增加恩給
- 四 賑恤金
- 五 給助金
- 六 扶助料

第三條 退職恩給、免除恩給、增加恩給及寡婦ノ扶助料ハ終身、孤兒ノ扶助料ハ年齡滿二十歳ニ至ルマテ賑恤金、給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第二章 退職恩給、免除恩給、增加恩給

第四條 退職恩給ハ准士官以上左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

- 一 現役十一年以上ニシテ年限ノ年齡ニ達シ又ハ年限ノ年齡ニ達セサルモ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス退職シタルトキ
- 二 戰鬪及戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準

スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

三 戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

四 現役十一年以上ニシテ未タ年限ノ年齡ニ達セスト雖休職停職滿期若クハ諭旨ニ依テ退職シタルトキ

第五條 免除恩給ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

- 一 現役十一年以上ニシテ年限ノ年齡ニ達シ又ハ年限ノ年齡ニ達セサルモ服役滿期トナリ或ハ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ
- 二 第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

第六條 退職恩給、免除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依テ之ヲ給ス但現役四十一年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十一年ノ額トス

第七條 軍人現役十一年以上ニシテ文官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス

第八條 退職恩給、免除恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シタル者退職又

ハ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

- 一 再ヒ現役ヲ離ル、トキノ現官階階初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等ナラサルトキハ前役年數ニ再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スル恩給ト既得ノ恩給トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス
- 二 前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ増加ス但前役十一年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十二年以上ニ至ラサレハ増加セス

第九條 増加恩給ハ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、免除恩給ノ外特ニ給スルモノトス

- 一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ
- 二 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
- 三 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
- 四 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
- 五 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
- 六 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

第十條 増加恩給ノ年額ハ軍人之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ從ヒ第三號表ニ依リ之ヲ給ス

第十一條 戰鬪及戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ

又ハ之ヲ受ケヌシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限内ニ検査ヲ願出ルトキハ策定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

- 一 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二個年
- 二 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三個年

第十二條 傷痕疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ

- 一 傷痕疾病ノ原因ハ現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書
- 二 傷痕疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官ノ證書若クハ陸海軍醫官ノ查察ヲ經タル醫師ノ證書

第十三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第三章 賑恤金、給助金

第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス

- 一 戰鬪及戰地公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ
- 二 戰時平時公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レ

第十五條 賑恤金ハ之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ應シ前條第一ニ當ル者ハ第三號表第五項ノ一個年分ヨリ少カラス十個年分ヨリ多カラス前條第二ニ當ル者ハ同表第六項ノ一個年分ヨリ少カラス十個年分ヨリ多カラサル金額トス

第十六條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ若クハ現役四年以上十一年未滿ニシテ現役ヲ離レ退職恩給、免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス其額ハ第四號表ニ依ル

第四章 服役年

第十七條 服役年ノ始期終期ハ左ノ各項ニ依ル

第一 退職恩給、免除恩給ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上ハ初任ノ日陸軍兵卒ヨリ出身ノ下士以上ハ入營ノ日海軍卒ヨリ出身ノ下士以上ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第六ニ當リタル者ハ其兵卒トナリタル日

二 陸軍兵卒ハ入營ノ日海軍卒ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第七ニ當リタル者ハ其刑期滿限ノ翌日

三 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ヨリ出身ノ士官以上ハ其士官ニ任シタル日

四 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

五 海軍下士以下ニシテ明治二年五月一日以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

第二 給助金ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上初任ノ日

第三 服役年ノ終期

一 現役ヲ離レタルノ日

第十八條 左ニ掲クル日數ハ服役年ニ通算ス

一 前條ニ掲クル服役年ノ始期ヨリ終期ニ至ルマテノ日數

二 豫備後備ニ在ル者戰時若クハ事變ニ際シ召集シタルトキハ其召集中ノ日數

三 海軍軍人轉シテ陸軍軍人トナリタルトキハ海軍服務ノ日數陸軍軍人轉シテ海軍軍人トナリタルトキハ陸軍服務ノ日數

四 文官ヨリ轉シテ陸海軍軍人トナリタル者ニ在テハ恩給ヲ受クヘキ最下限ノ期ニ至ルマテハ文官服務中ノ日數四分ノ三

五 現役ノ者陸軍見習士官、海軍候補生若クハ陸海軍諸生徒トナリ再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數

六 現役ヲ離レタル後再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數

七 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒、海軍水雷夫及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シタルトキハ其日數

第十九條 左ニ掲クル日數ハ服役年ヨリ除算ス

- 一 刑期中及逃走中ノ日數
- 二 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒中ノ日數但從軍中ノ日數ハ此限ニアラス
- 三 文官奉職中ノ日數ニシテ官吏恩給法ニ依リ除算スヘキ月數
- 四 年齡十七歲未滿ノ日數

第五章 從軍年

第二十條 從軍年ハ現役外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スルモノトス

第二十一條 從軍年ノ加算ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ内國港灣ヲ出發シタルトキハ二個年
- 二 内國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ戰地ニ臨ミタルトキハ一個年
- 三 臨戰合圍地境內ニ於テ服役シタルトキ外國ニ在テハ二個年内國ニ在テハ一個年
- 四 日本國外ノ鎮戍ニ在リタルトキハ一個年
- 五 出征事件ニ關シ功績アル者及一時ノ出兵ヲ出征軍ト見做シ從軍年ニ加算スヘキ場合ハ勅裁ニ依ル

第二十二條 海軍軍人ノ外國航海ハ從軍年ニ準シ内國港灣出發ノ日ヨリ一航海ヲ半個年ニ加算ス其航海十二個月ニ超エルトキハ更ニ半個年ヲ加算ス但第二十一條ニ當ルトキハ本條ヲ適用セス

第二十三條 從軍年ノ加算ハ十二個月間數回ノ戰役ニ從ヒ若クハ航海ヲ爲スト雖モ重複シテ之ヲ算セス但其一年以上ニ亘リ十二個月ニ餘ル所ノ分數ハ更ニ一役若クハ一航海ト爲ス

第六章 恩給ヲ受クヘキ資格及權利ノ消滅停止

第二十四條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ退職恩給、免除恩給、增加恩給、賑恤金、給助金ヲ受クヘキ資格消滅ス

- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 三 將校及相當官准士官ニ於テハ陸海軍刑法劊官ヲ附加スル禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒタルトキ
- 四 將校及相當官ニ於テハ陸海軍將校分限令第二條第一項第六項ニ依リ免官トナリタルトキ
- 五 准士官以下願ニ依リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ
- 六 陸海軍下士陸軍上等兵看護手樂手補ニ於テハ陸海軍刑法普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒ若クハ陸軍懲罰令若クハ憲兵條例第三十五條ニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ
- 七 諸卒ニ於テハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ陸海軍刑法ニ依リ將校ニ對シテ劊官ヲ附加スヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十五條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間之ヲ停止ス

一 再ヒ現役ニ就キ若クハ文官判任以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ
但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス

二 公權ヲ停止セラレタルトキ

増加恩給ハ公權ヲ停止セラレタル場合ニアラサレハ停止セサルモノトス

第二十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第七章 扶助料

第二十七條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受クルノ權利アルモノトス

一 第四條第二第三ニ當リ死歿シタルトキ

二 第四條第一第四第五條第一ニ當リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受クヘキ權利ヲ有シテ死歿シタルトキ

第二十八條 寡婦扶助料ノ年額ハ當該軍人ノ官階ト死歿ノ因由トニ依リ前條第一ニ當ルトキハ第五號表ニ依リ第二ニ當ルトキハ第六號表ニ依テ之ヲ給ス

第二十九條 扶助料ヲ受クル者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其權利消滅ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

三 扶助料ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサルトキ

四 死歿若クハ戸籍ヲ去リ若クハ婚嫁シタルトキ

第三十條 扶助料ヲ受クル者公權ヲ停止セラレタルトキハ其間扶助料ヲ停止ス

第三十一條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死歿シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第三十二條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼承者ニ給シ非戸主軍人ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼承者及長子死歿シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ及フモノトス但家名繼承者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第三十三條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若クハ死歿シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得
其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第三十四條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死歿シタル軍人ノ戶籍内ニアル二十歳未滿又ハ癱疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第三十五條 第二十七條乃至第三十四條ヲ適用スヘキ軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ハ其軍人現役中陸海軍兵籍簿ニ登記シタル者ニ限ル

第三十六條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼承者ニ限ル

第三十七條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

雜則

第三十八條 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者退職若クハ免官スルトキハ同年七月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

海軍下士以下ニシテ明治二年五月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同年四月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第三十九條 豫備後備ニ在ル者平時召集中職務ノ爲メ死歿シ又ハ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ

役ニ堪ヘサルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

屯田兵下士卒ニシテ定規ノ給助ヲ受クル者平時軍隊勤務ノ爲メ死歿シ又ハ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキ亦同シ

第四十條 陸軍見習士官海軍候補生陸海軍諸生徒定規ノ給助ヲ受クル屯田兵下士卒及海軍水雷夫ハ第四條第二第三ニ因リ死歿シ又ハ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者ニ限リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第四十一條 恩給ノ支給ハ陸海軍大臣ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ由リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六個月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷疾疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪ユルト否ラサルト

第四十二條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ヌ又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ヌ

第四十三條 明治八年達海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料及扶助料ヲ受クル者ハ總テ該令ニ依ルヘシ但明治九年達

第二號 免除恩給表

年數	官				陸軍	海軍	陸軍	海軍
	判	任	官	卒				
三十二年	二千二百	二千六百	三千四百	二千	陸軍一等卒	海軍一等卒	陸軍一等卒	海軍一等卒
三十三年	二千五百	二千四百	三千二百	二千五百	陸軍二等卒	海軍二等卒	陸軍二等卒	海軍二等卒
三十四年	二千七十	二千六百	三千四百	二千七十	陸軍三等卒	海軍三等卒	陸軍三等卒	海軍三等卒
三十五年	二千百圓	二千六百八	三千四百七	二千百圓	陸軍四等卒	海軍四等卒	陸軍四等卒	海軍四等卒
三十六年	二千百圓	二千六百八	三千四百七	二千百圓	陸軍五等卒	海軍五等卒	陸軍五等卒	海軍五等卒
三十七年	二千百圓	二千六百八	三千四百七	二千百圓	陸軍六等卒	海軍六等卒	陸軍六等卒	海軍六等卒
三十八年	二千百圓	二千六百八	三千四百七	二千百圓	陸軍七等卒	海軍七等卒	陸軍七等卒	海軍七等卒
三十九年	二千百圓	二千六百八	三千四百七	二千百圓	陸軍八等卒	海軍八等卒	陸軍八等卒	海軍八等卒
四十年	二千百圓	二千六百八	三千四百七	二千百圓	陸軍九等卒	海軍九等卒	陸軍九等卒	海軍九等卒

十五年	六十九圓	六十二圓	五十六圓	五十一圓	四十六圓	四十一圓	三十六圓	三十二圓
十六年	七十二圓	六十五圓	五十八圓	五十三圓	四十八圓	四十三圓	三十八圓	三十三圓
十七年	七十五圓	六十八圓	六十一圓	五十五圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓
十八年	七十七圓	七十圓	六十二圓	五十六圓	五十一圓	四十六圓	四十一圓	三十六圓
十九年	七十九圓	七十二圓	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十七圓	四十二圓	三十七圓
二十年	八十一圓	七十四圓	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十八圓	四十三圓	三十八圓
二十一年	八十四圓	七十六圓	六十八圓	六十二圓	五十六圓	五十圓	四十四圓	三十九圓
二十二年	八十七圓	七十八圓	七十圓	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十六圓	四十一圓
二十三年	九十圓	八十一圓	七十二圓	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十八圓	四十二圓
二十四年	九十二圓	八十三圓	七十四圓	六十七圓	六十一圓	五十五圓	四十九圓	四十三圓
二十五年	九十四圓	八十五圓	七十六圓	六十九圓	六十三圓	五十七圓	五十一圓	四十五圓
二十六年	九十六圓	八十七圓	七十八圓	七十一圓	六十五圓	五十九圓	五十三圓	四十七圓
二十七年	九十九圓	九十二圓	八十三圓	七十六圓	七十圓	六十四圓	五十八圓	五十二圓
二十八年	百二圓	九十二圓	八十二圓	七十五圓	六十八圓	六十一圓	五十四圓	四十七圓
二十九年	百五圓	九十五圓	八十四圓	七十七圓	七十圓	六十三圓	五十六圓	四十九圓
三十年	百七圓	九十七圓	八十六圓	七十八圓	七十一圓	六十四圓	五十七圓	五十圓

三十一年	百九十四	九十九	八十八	八十四	七十二	六十五	五十八	五十一
三十二年	百一十四	百一	九十九	八十二	七十四	六十六	五十九	五十二
三十三年	百十四	百三	九十二	八十四	七十六	六十八	六十一	五十四
三十四年	百十七	百五	九十四	八十六	七十八	七十	六十二	五十四
三十五年	百二十	百八	九十六	八十八	八十	七十二	六十四	五十六
三十六年	百二十二	百十	九十八	八十九	八十一	七十三	六十五	五十七
三十七年	百二十四	百十二	百	九十一	八十二	七十四	六十六	五十八
三十八年	百二十六	百十四	百二	九十三	八十四	七十五	六十七	五十九
三十九年	百二十九	百十六	百四	九十五	八十六	七十七	六十八	六十
四十年	百三十二	百十九	百六	九十七	八十八	七十九	七十	六十一

第三號 負傷增加恩給表

將官及相當官		佐尉官及相當官		准士官		下士官		卒	
項	官	項	官	項	官	項	官	項	官
一	一等	一	一等	一	一等	一	一等	一	一等
二	二等	二	二等	二	二等	二	二等	二	二等
三	三等	三	三等	三	三等	三	三等	三	三等
四	四等	四	四等	四	四等	四	四等	四	四等
五	五等	五	五等	五	五等	五	五等	五	五等
六	六等	六	六等	六	六等	六	六等	六	六等

第四號 給助金表

將官及相當官		佐尉官及相當官		准士官		下士官	
親任官	勅任官	親任官	勅任官	親任官	勅任官	親任官	勅任官
一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等
三等	四等	三等	四等	三等	四等	三等	四等
五等	六等	五等	六等	五等	六等	五等	六等
七等	八等	七等	八等	七等	八等	七等	八等
九等	十等	九等	十等	九等	十等	九等	十等

第五號 戰鬪及公務ノ爲メ死歿シタル者ノ寡婦孤兒扶助料

將官及相當官		佐尉官及相當官		准士官及下士官	
勅任官	奏任官	勅任官	奏任官	勅任官	奏任官
一等	二等	一等	二等	一等	二等
三等	四等	三等	四等	三等	四等
五等	六等	五等	六等	五等	六等
七等	八等	七等	八等	七等	八等
九等	十等	九等	十等	九等	十等

第六號 寡婦孤兒扶助料

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤

將官及相當官		佐尉官及相當官		准士官及下士	
現任官	勅任官	奏任官	判任官	陸軍	海軍
一等	二等	三等	四等	五等	六等
七等	八等	九等	十等	十一等	十二等
十三等	十四等	十五等	十六等	十七等	十八等
十九等	二十等	二十一等	二十二等	二十三等	二十四等
二十五等	二十六等	二十七等	二十八等	二十九等	三十等

〔一〕軍人恩給法施行規則 明治二十三年七月二日
閣令第五號

軍人恩給法施行規則左ノ通定ム
軍人恩給法施行規則

- 第一條 軍人恩給法ニ依リ退職恩給免除恩給増加恩給照償金給助金ヲ受クヘキ者ハ其請求書ニ履歴書ヲ添ヘ公務ノ爲メ受ケタル傷病疾病ニ起因シ之ヲ請求スル者ハ軍人恩給法第十二條ニ掲クル書類ヲ添ヘ所管長官ニ差出シ所管長官ヨリ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ
- 第二條 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ受クヘキ資格アル軍人死歿シタルトキハ所管長官ヨリ死者ノ履歴書ヲ其遺族ニ下付スヘシ
- 軍人恩給法第二十七條第一ニ當ル者アリタルトキハ所管長官ヨリ其事實ヲ證明スヘキ書類ヲ其遺族ニ下付スヘシ
- 第三條 軍人恩給法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ其請求書ニ請求者署名シ後見人アレハ其後 親族二名親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ市町村長ノ奥印ヲ受ケ左ニ掲クル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍簿ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ
- 一 現役中死歿シタル軍人ノ遺族ハ所管長官ヨリ下渡シタル死者ノ履歴書
 - 二 前項ノ者軍人恩給法第二十七條第一ニ當ルトキハ履歴書ノ外所管長官ヨリ下渡シタル公務ノ爲メ死歿シタル事實ヲ證明スヘキ書類

廿三年大藏省
令第二十四號
(第五十三
二項)參看

- 三 恩給ヲ受ケタル軍人ノ遺族ハ其恩給證書
 - 四 扶助料ヲ受クル者死歿若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ満チタルトキ其轉給ヲ受クヘキ者ハ前者ノ恩給證書
 - 五 扶助料ヲ受クル者公權停止ニ因リ其轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書
 - 六 軍人恩給法第三十四條ニ當ル撥戻不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ハ第一第二若クハ第三若クハ第四ニ掲クル書類ノ外醫師ノ診斷證書
- 地方長官前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ但明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シ陸軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル元警視局長ノ遺族ヨリ本條ノ請求ヲ爲シタルトキハ地方長官ヨリ内務大臣ニ差出スヘシ
- 第四條 陸海軍大臣又ハ内務大臣前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ審査ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ恩給計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ其傷病疾病ニ起因スルモノニ付テハ陸軍省醫務局若クハ海軍中央衛生會議ノ覆診ヲ經タル書類ノ軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姊妹ノ扶助料ニ付テハ陸海軍兵籍簿ノ寫ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 陸海軍大臣又ハ内務大臣ニ於テ前項請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 第五條 内閣ニ於テ恩給ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作リ陸軍省若クハ海軍省若クハ内務省若クハ海軍省若クハ内務省ヨリ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ
- 恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ
- 第六條 軍人恩給法第三十八條ノ月俸ニシテ米給ニ係ルモノハ官吏恩給法施行規則第十一條ノ例ニ依ル
- 第七條 扶助料ヲ受クル者死歿若クハ戸籍ヲ去リ若クハ結婚シ若クハ支給期限ノ満チタルトキハ地方廳ニ於テ其月ノ翌月ヨリ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ大藏省ハ之ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ
- 第八條 軍人恩給法第九條第十四條第十五條ノ傷病疾病輕重ノ等差ハ陸海軍大臣之ヲ定ム
- 第九條 明治八年達陸軍武官傷病扶助死亡ノ者祭葬家族扶助概則及海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤 四百九

陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料扶助料ヲ受ク者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

一 死歿又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ他府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキ

第十條 明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

第十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十二條 本規則ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法施行規則ノ例ニ依ル

〔二〕陸軍軍人恩給取扱手續 明治二十三年七月二十三日 陸軍省令第二十二號

陸軍軍人恩給取扱手續

陸軍軍人恩給取扱手續

第一條 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ請求スル手續ハ軍人恩給法施行規則ニ示シタルモノノ外陸軍部内ニ在テハ此細則ニ準據スヘシ

第二條 退職恩給免除恩給増加恩給ノ請求書ハ當該軍人現役ヲ離レタル後第一第二書式ニ示シタル書類ヲ具備シ舊所屬長ニ呈スヘシ所屬長之ヲ調査シ計算書(第九書式)ヲ作リ順序ヲ經テ所管長官ニ呈シ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 傷病疾病ニ基ク恩給ノ請求ニ係ルトキハ所管長官其餘斷證書(第五書式)ヲ軍醫長ニ移シテ審査セシメタル上陸軍大臣ニ進達スヘシ

地方醫師ノ診斷證書ヲ以テ恩給ヲ請求スルハ陸軍醫官ノ診斷ヲ受クルコト能ハサル場合ニ限ル其證書ニハ原因經過療法及ヒ現症ヲ詳記シテ醫師二名署名セシムヘシ所管長官ハ醫官ヲシテ其傷病疾病ノ等ヲ判定シ査察證書ヲ作ラシメタル上書類ヲ軍醫長ニ移シ之ヲ審査セシムヘシ

第四條 軍人恩給法第十一條ニ當ル者ハ其期限内ニ於テ居住地方ノ師團長若クハ屯田兵司令官ニ検査ヲ請求スルコトヲ得

師團長若クハ屯田兵司令官其請求ヲ受ケタルトキハ醫官ヲシテ其症狀ヲ實査セシメ診斷證書(第五書式)ヲ作ラシム其診斷證書ノ審査ニ係ル取扱ハ第三條ノ例ニ同シ

第五條 休職者停職者ノ恩給請求書ハ直ニ所管師團長若クハ屯田兵司令官 兵籍ヲ寄留地ニ移シタル者ハ其寄留地ノ師團長ニ呈スヘシ師團長ハ之ヲ參謀長屯田兵司令官ハ參謀ニ下シテ調査セシメ計算書(第九書式)ヲ作リ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 賑恤金ノ請求ハ第三書式ニ示シタル書類ヲ具備シ舊所屬長ニ呈スヘシ所屬長ハ順序ヲ經テ所管長官ニ呈シ所管長官ハ第三條ノ例ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第七條 給助金ノ請求ハ第四書式ニ示シタル書類ヲ具備シ本人若クハ遺族ヨリ舊所管長官ニ呈スヘシ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第八條 恩給ヲ受クル權利ヲ有スル士官候補生ノ内見習士官ハ曹長ニ一等軍曹二等軍曹ノ各階級ニ進ミタル者ハ其階級ニ其他ノ生徒ハ總テ兵卒ニ準ス

第九條 服役年ヲ算スルニ當リ初任ノ月ニ端日數ヲ生シタルトキハ其月ノ大小ニ依リ積算スルヲ注トス故ニ現役ヲ離レタル月ノ端日數ト合セテ三十日以上ニ及ヒタルトキハ其初任ノ月ノ大小ニ從ヒ一箇月ノ區域ヲ定ム

第十條 軍人恩給法施行規則第二條ニ依リ所管長官ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ヘ下附スルトキハ兵籍ノ寫ヲ添ユヘシ戸籍ニ關スル但給助金ノミヲ受クヘキ遺族ニ在テハ兵籍ノ寫ヲ下附スルニ及ハス

第十一條 恩給賑恤金給助金ノ請求書及ヒ履歷書ハ各二通ヲ提出スヘシ

第一書式(用紙美濃紙)

恩給請求書

何年何月何日何兵ニテ入營(何々被申付)何年何月何日被任何官爾來何箇年服役何年何月何日豫備(後備)(退役)(服役)

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤

満期(傷病(疾病)ノ故ヲ以テ退役(免官)(免役)ニ相成候様テハ軍人恩給法第何條ニ據リ恩給下賜度證據書類相添請
求仕候也

年月日

所管長官爵氏名殿

官 氏 名印

元第何師團何兵第何聯隊第何中隊(官儼)
何府(縣)何市區(郡)何市(町)何村(番地)何土族(平民)
何府(縣)何市區(郡)何市(町)何村(番地)何土族(平民)

附屬スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

傷病疾病ニ係ルモノハ

履歷書(第八書式)

診斷證書(第五書式)若クハ第三條第二項ノ地方醫師診斷證書

現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第二書式(用紙美濃紙)

(傷病疾病重症ニ趨キ恩給ノ増加ヲ請
求若クハ其恩給ヲ更ニ請求スルトキ)

恩給請求書

何年何月何日ヨリ傷病(疾病)ノ故ヲ以テ恩給及負傷増加恩給下賜候(現役ヲ離レ候)處爾來何々ニ依リ遂ニ重症ニ趨キ
別紙診斷證書ノ通ニ候間御検査ノ上軍人恩給法第何條ニ據リ恩給下賜度證據書類相添請求仕候也

年月日

所管長官爵氏名殿

官 氏 名印

肩書第一書式ニ同シ

附屬スヘキ證據書類

診斷證書 地方醫師ノ製シタル診斷證書ニア

更ニ恩給ヲ請求スルモノハ

履歷書(第八書式)

診斷證書 地方醫師ノ製シタル診斷證書ニア

現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第三書式(用紙美濃紙)

賑恤金請求書

何年何月何日何地ニ於テ何々ノ爲メ傷病ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)爾來加療ノ未服役ニ堪ヘサルヲ以テ何月何日免官(免役)
相成候様テハ軍人恩給法第何條ニ據リ相當ノ賑恤金下賜度證據書類相添請求仕候也

年月日

所管長官爵氏名殿

元官 氏 名印

肩書第一書式ニ同シ

附屬スヘキ證據書類

診斷證書(第五書式)若クハ第三條第二項ニ同シキ地方醫師診斷證書
現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第四書式(用紙美濃紙)

給助金請求書

何年何月何日被任何官爾來何箇年勤続本年何月何日現役ヲ離レ候ニ付軍人恩給法第何條ニ據リ給助金下賜度證據書類
相添請求仕候也

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤

年月日

所管長官の氏名殿

戸籍第一書式(同)

官 氏 名印

附屬スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

(遺族ヨリ出願ノトキ)

給助金請求書

第何師團何兵第何隊第何中隊(官牌)

故官 氏 名

右何年何月何日死去任候ニ付軍人恩給法第何條ニ據リ給助金下賜證據書類相添請求仕候也

故官氏名(孤兒)(遺族)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地(士)族(平民)

氏 名印

所管長官の氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

第五書式(用紙美濃十三行野紙)

診斷證書

(一四八朱書)

第何師團何兵第何隊(大)隊第何中隊

陸軍何兵何卒 氏 名

右何年(何役)何月何日何地ニ於テ何々ノ際右大臑前下部ヨリ膝關ニ貫通スル骨傷銃創ヲ受ケ(何病ニ罹リ)直ニ縛帶所(某野戰病院)ニ於テ一時ノ處置ヲ施シ爾後何々病院ヲ經テ何月何日某備後病院(某豫備病院)ニ入院(軍人恩給法第十條ニ當ルモノ)ハ爾來加療ノ未創面治癒スルニ由リ何年何月現役ヲ離レタル後何日何日來該傷痕ノ爲メ何々症ヲ發シ(當時ノ症狀何々(何々症ヲ稱)併)發ス)依テ何々ノ部ニ何々ノ手術(何々ノ療法)ヲ施シ爾後經過何々ニシテ現今創面(何々)ハ治癒スト雖モ右膝關即何度ノ角ニ於ケル強剛ヲ遺シ且患肢ハ健肢ヨリモ瘦削スルコト何々ノ部ニ於テ現今創スルニ何仙送送篤爾ニシテ該肢ノ用ヲ妨グルニ由リ軍人恩給法第九條第何項症(賑恤金ニ係ルモノ)ハ軍人恩給法第十條第何項即陸軍々人傷痕疾病恩給等條例第二條第何款(甲)〔〕症〕ト診斷候也

年月日

主任

職 官 氏 名印

再診

何病院長 官 氏 名印

〔審査〕

第何師團軍醫長 官 氏 名印

〔右置候處適當ノ診斷ト認定候也〕

備考

傷痕疾病ノ原因(傷痕ノ種類)部位(淺深)等疾病ノ輕重併發症(續發症等)經過療法及ヒ現時官能障礙ノ景況ヲ詳記スヘシ

〔陸軍省醫務局長

氏

名

印

本證書ハ退役又ハ服役免除ノ爲ニ要スル診斷證書ト同時ニ調製スヘキモノトス

再診ハ本人ニ就テ診斷スルヲ例トス但シ場合ニ依リ病床日誌ノ寫(病床日誌ヲ作ラサルトキハ病歴書)ニ就テ再診スルコトヲ得

第二類 第二章

恩給及遺族扶助法

退隱料

救恤

各官衙附屬兵隊等ノモノニ係ル審査ノ取扱ハ一般ノ手續ニ據ル
第六書式(用紙美濃十三行野紙)

死亡證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊
陸軍何兵何等卒 氏 名
右何年何月何日何地ニ於テ何々ノ際何部ニ何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)爾後何病院(何々ヲ經テ何月何日來何病院)ニ於テ
加療候處(何々症ヲ稱(併)發シ)遂ニ何々ニ由リ本日午前(後)何時何分死亡候也
年月日 職 官 氏 名

第七書式
備考 入院患者ニアリテハ病院長其他ニアリテハ主任ノ醫官之ヲ圖製スルモノトス

現認證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊
陸軍何兵何等卒 氏 名
右何年何月何日午前(後)何時何地ニ於テ俱ニ進軍ノ際(器械體操何演習)何々ノ際何々ニ由リ何々ニ觸レ(何々ニ由リ
何物ノ爲ニ)何部ニ何傷ヲ受クルヲ現認候也

年月日

同

官 氏 名
官 氏 名

備考 本證書ハ他メテ受領ノ現況ヲ詳記スヘシ

現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニテ之ヲ作ルヘシ
第八書式

履歴書 (死者ノ遺族(下付スヘキ履歴書モ之ニ準ス))

明治何年何月何日 徵兵ニテ何師團(入營(任何官)ノ名ヲ任官)ノ下ニ一々記入スヘシ
同 何年何月何日 何々ノ科ニ依リ輕轉鋼何日
同 何年何月何日 任何兵二等軍曹
同 何年何月何日 任何兵一等軍曹
同 何年何月何日 某地從軍(外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレタルトキハ内國港灣出發ノ日)
同 何年何月何日 某地ヨリ歸營(外國戰ニ當リテハ歸港ノ日)
同 何年何月何日 某地ニ在テハ戰地ニ臨ミタル日
同 何年何月何日 日本國外ノ領成ニ在リタルトキハ其領成ニ臨ミタル日
同 何年何月何日 外國戰ニ當リテハ歸港ノ日
同 何年何月何日 內國戰ニ當リテハ戰地ヲ退キタル日
同 何年何月何日 日本國外ノ領成ニ在リタルトキハ其領成ヲ離レタル日
同 何年何月何日 任何兵曹長
同 何年何月何日 任何兵少尉
同 何年何月何日 任何兵中尉
同 何年何月何日 豫備(後備)(退役)被仰付(免官)(免役)(死亡)
第九書式

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地(土)族(平民)
同 何番地寄留
官 氏 名印

恩給計算書													官氏名	
年		月		日		事由		服役年通算					官氏名	
明治何年	何月	何日	明治何年	何月	何日	任何官	任何官	何年何箇月					官氏名	職名
同	四年	七月	三十日	月	官祿何石		徼兵	何年何箇月						
同	何年	何月	何日	月	何日			除ク						
同	何年	何月	何日	月	何日		教導團生徒	何年何箇月何日					加算	
同	何年	何月	何日	月	何日			何年何箇月何日						
同	何年	何月	何日	月	何日			何年何箇月何日						
同	何年	何月	何日	月	何日			何年何箇月何日						
同	何年	何月	何日	月	何日			何年何箇月何日						
同	何年	何月	何日	月	何日			何年何箇月何日						
同	何年	何月	何日	月	何日		服役終期	何年何箇月何日						
同	何年	何月	何日	月	何日		何役從軍	何年何箇月何日						
													總計何年何箇月何日	

第二類 第二章 恩給及遺族扶助法 退隱料 救恤 四百十九

年 月 日	職 官 氏 名	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	輕 禁 錮		何月何日
											何年	何月	
													差引何年何箇月何日
													退職(免除)恩給何年何箇月何日
													金 圓 四分ノ金額
													增加恩給何項ノ高
													金 圓 四分ノ金額
													增加恩給何項ノ高
													金 圓 四分ノ金額

備考 服役年ノ端數ヲ合シテ三十日以上ニ及フトキハ初任ノ月ノ大小ニ依リ一箇月ヲ定ム。又官俸仕中ノ年月ヲ武官ノ年月ニ補フトキ一日未滿ノ分數ヲ生スルトキハ之ヲ一日ニ採ル

				八明治五年九月九日	何補出仕	三年九箇月二十日
		同十二年二月二十日				四年三月三十一日
		同二年二月二十一日				三年七箇月十二日
		同十二年十二月三十一日	終服	期役		
						十年十箇月九日
						總計十四年七箇月十二日

○第三類

○第一章 議會

第五十九 議會并議員保護ノ件 明治二十二年十一月八日公布 法律第二十八號

朕議會並議員保護ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十一月七日

内閣總理大臣公卿三條實美
司法大臣伯耆山田顯義

法律第二十八號

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行為ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行為ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行為ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓

第三類 第一章 議會

以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

〔二〕帝國議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル事務管掌監督方 明治二十四年二月二十四日公布

勅令第十五號

朕帝國議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年二月二十三日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
内務大臣伯爵西鄉從道

勅令第十五號

第一條 帝國議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル行政事務ハ各院書記官長之ヲ掌ル

第二條 前條事務ノ指揮監督ハ内務大臣之ヲ行フ

〔第六十〕衆議院議員選舉法罰則補則 明治二十三年五月三十日
法律第四十號

朕衆議院議員選舉法罰則補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月二十九日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
内務大臣伯爵西鄉從道
司法大臣伯爵山田顯義

法律第四十號

衆議院議員選舉法罰則補則

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辦シ又ハ代辦スルコトヲ約束シ及其代辦又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐偽ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ヌ又ハ當選ヲ承諾スルノ意

第三類 第一章 議會

衆議院議員選舉法
第九十二條
第九十三條
第九十四條
第九十五條
第九十六條
第九十七條
第九十八條
第九十九條
第一百條

ナントノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用非ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第四百條ノ例ニ依ル

〔一〕府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員選舉區域 第六十四ノ一項ニ掲ク

〔二〕衆議院議員選舉法施行規則 明治二十三年一月十日公布 勅令第三號

衆議院議員選舉法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年一月九日

内務大臣伯爵山縣有朋

勅令第三號

衆議院議員選舉法施行規則

第一條 選舉人ノ年齢ハ選舉期日(七月一日)ノ前滿二十五歲ニ達スルヲ以テ合格トス

第二條 選舉法第六條第二ニ掲クル住居ノ期限内ニ選舉人其ノ住居ヲ府縣外ニ移シ再ヒ其ノ本籍府縣ニ歸住シタルトキハ時日ノ長短ニ拘ラス其ノ期限中斷シタルモノトス但シ旅行中ノ滞在ハ中斷スルノ限ニ在ラス

第三條 選舉人及被選人ノ納稅資格ハ地租ニ付テハ選舉人名簿調製期日(四月一日)ノ前滿一年以上十五圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及納ムル者ヲ以テ合格トシ所得稅ニ付テハ選舉人名簿調製期日ノ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ヲ以テ合格トス

賣買讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其ノ所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ日ニ依ルヘシ

滿三年以上所得稅ヲ納メ及滿一年以上地租ヲ納ムル者其ノ地租及所得稅ヲ併セ十五圓以上ニ及フトキハ納稅資格ヲ有スルモノトス但シ所得稅ヲ納ムル者毎年ノ納額ニ差異アルトキハ其ノ最少額ヲ以テ地租ニ併算スヘシ

第四條 質入地ノ地租ハ其ノ地主ノ納稅資格ニ算入スヘシ

第五條 數人共有地ノ地租ハ之ヲ平分シ各箇ノ納稅資格ニ算入ス但シ土地臺帳又ハ附屬帳簿ニ所有權又ハ納稅負擔ノ割合ヲ記入シタルモノハ各其ノ割合ニ依ルヘシ

第六條 被選人ノ年齢ハ選舉期日ノ前滿三十歲ニ達スルヲ以テ合格トス

被選人家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ノ納稅資格ハ選舉法第七條ニ規定シタル選舉人ノ例ニ同シ

第七條 警視廳ノ官吏ハ選舉法第十條ノ例ニ依リ東京府内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス
第八條 郡市ヲ合セ又ハ二郡以上ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉ノ管理ニ關係スル郡ノ官吏ハ選舉法第十一條ニ規定シタル市町村吏員ノ例ニ依リ其ノ選舉區内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第九條 選舉法第十二條ニ掲ケタル神官トハ神社ニ奉祀スルヲ職トスル者、僧侶及教師トハ教規若ハ宗制ニ從ヒ其ノ分限ヲ有スル者其ノ他何等ノ宗教ヲ問ハス宣教ニ從事スル者ヲ謂フ

第十條 組合町村ニシテ一ノ町村役場ヲ置クトキハ其ノ組合町村ヲ以テ一投票區域トス
選舉法第十九條第一ノ場合ニ於テ一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタルトキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス

選舉法第十九條第二ノ場合ニ於テ市内ニ在ル數區ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルトキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス
選舉法第十九條第三ノ場合ニ於テ郡市ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルトキハ郡ハ町村ヲ以テ一投票區域トシ市ハ其ノ市ヲ以テ一投票區域トス

第十一條 選舉人名簿ニハ選舉人ヲ其ノ姓ノ伊呂波順ニ記載シ番號ヲ付スヘシ

第十二條 選舉人正當ノ事故ニ依リ選舉法第二十條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ選舉人名簿ニ登録セラレサルトキハ其ノ第二十三條ノ例ニ依リ脱漏ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十三條 選舉長ノ判定ニ對スル出訴若ハ始審裁判所ノ判決ニ對スル上告ノ爲ニ其ノ判定又ハ判決ノ執行ヲ停止セス

第十四條 選舉人名簿確定ノ後選舉人其ノ投票區域外ニ轉住シタルトキハ前住地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第十五條 投票ヲ始ムル時刻ニ至リ立會人參會セサルトキハ投票所管理者ハ參會シタル選舉人中ヨリ更ニ立會人ヲ指定スヘシ

第十六條 投票所管理者ハ投票所入場券ヲ製シ遅クトモ投票期日ノ五日前ニ之ヲ各選舉人ニ配付スヘシ

入場券ノ配付ヲ受ケサル選舉人ハ之ヲ請求スルコトヲ得
此ノ規則第十四條ニ依リ投票ヲ爲サントスル者ハ前項ノ例ニ依リ入場券ヲ請求スルコトヲ得

入場券ニハ選舉人ノ住所姓名選舉人名簿ニ記載シタル番號及投票ノ場所日時ヲ記載スヘシ

第十七條 選舉人投票所ニ入ルトキハ入場券ヲ受付掛ニ差出スヘシ選舉人多數ナル投票所ニ於テハ必要ナルトキハ到著番號札ヲ受取ラシムヘシ

第十八條 選舉人入場券ヲ紛失シタルトキハ其ノ由ヲ受付掛ニ申立テ投票所管理者ノ承認ヲ得テ入場スルコトヲ得

第十九條 投票所管理者ハ選舉人ヲ呼出シ其ノ住所姓名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ對照シ投票用紙ヲ交付スヘシ若到著番號札ヲ受取ラシメタル場合ニ於テハ到著番號ノ順序ニ從ヒ番號札ト引換ニ投票用紙ヲ交付スヘシ

第二十條 選舉人誤テ投票用紙ヲ汚染シタルトキハ更ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 投票ハ投票所管理者及立會人ノ面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投票函ニ投入シ順次投票所ヨリ退出スヘシ

第二十二條 投票終ルノ時刻ニ至リタルトキハ投票所管理者ハ其ノ由ヲ宣告シ一時入口ヲ閉鎖セシメ參會シタル選舉人中未投票セサル者アルトキハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第二十三條 選舉長ハ各投票所ノ投票函總テ到達シタル翌日選舉法第四十八條ノ手續ヲ爲シ逐次投票ヲ開披點檢シテ選舉委員ニ付シ每票先ツ選舉人ノ姓名次ニ被選人ノ姓名ヲ朗讀セシメ書記二名以上ヲシテ被選人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉長ハ各被選人ノ得點總數ヲ朗讀スヘシ

第二十五條 點檢濟ノ投票ハ其ノ有効無効ヲ區別シテ封緘シ選舉長ハ選舉委員ト共ニ之

ニ捺印スヘシ

連名投票ニシテ其ノ一部無効ナルモノハ無効投票ト共ニ保存スヘシ

第二十六條 天災若ハ其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ投票ヲ行フコトヲ得ヌ又ハ選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ投票所管理者又ハ選舉長ハ其ノ施行ヲ止メ府縣知事ニ其ノ由ヲ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ期日ヲ定メ更ニ投票ヲ行ハシメ又ハ選舉會ヲ開カシムヘシ但シ其ノ期日ハ遅クトモ五日以前ニ投票區域内又ハ選舉區内ニ告示セシムヘシ

第二十七條 選舉法第五十八條第二項ノ場合ニ於テ生年月ノ差ニ依テ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ第六十三條ノ期限内ニ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ生年月ノ差ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第二十八條 選舉法第六十三條ニ掲ケタル届出ノ期限ハ第六十條ニ依リ當選人ノ姓名ヲ告示シタル日ヨリ起算スヘシ

第二十九條 選舉法第五十二條ノ選舉長ノ決定ニ對シ異議アル者又ハ第七十六條ノ投票所管理者ノ決定ニ對シ不服ナル者ハ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ選舉法第二十六條ノ例ニ依ル

第三十條 選舉長及投票所管理者故障アルトキハ其ノ附屬ノ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

〔三〕衆議院議員選舉法及選舉法施行規則ニ付テノ事務及書式等取扱方

明治二十三年一月十七日
内務省訓令第二號府縣

(沖繩縣
ヲ除ク)

- 衆議院議員選舉法及選舉法施行規則ニ就テハ其事務及書式等左ノ各條ニ準據シ取扱フヘシ
- 第一條 衆議院議員選舉法第十八條ノ選舉人名簿ハ別紙第一號ノ式ニ依リ開製スヘシ
- 第二條 投票所管理者ハ過クトモ投票期日ノ五日前ニ投票所ヲ指定シ之ヲ其投票區域内ニ公告スヘシ
- 第三條 投票所管理者ハ選舉法第三十三條ニ依リ立會人ヲ定メ之ヲ本人ニ通知スルトキハ其指定シタル立會人ノ内若シ
正當ノ事故ニ由リテ其職ヲ辭スル者アルモ仍ホ投票期日ノ三日前更ニ立會人ヲ指名スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存シテ之
ヲ通知スヘシ但臨時已ムヲ得サル事故ニ由リ投票期日ノ一兩日前ニ至リ其職ヲ辭スル者アルトキハ選舉法施行規則第
十五條ニ依リ投票ノ當日投票所ニ參會シタル選舉人中ヨリ之ヲ指名スヘシト雖投票所管理者ハ豫メ其當日指名セント
スル者ヲ定メ前以テ之ヲ其本人ニ通牒シ置キ投票ヲ始ムル前ニ參會セシメ臨時指名スルニ差支ナカランルヲ要ス
- 第四條 投票用紙投票函ノ入場券及到着番號札ハ別紙第二號第三號第四號ノ式ニ依ルヘシ
- 第五條 投票所ハ寺院若クハ學校等ノ如キ可成門戸アル場所ヲ以テ投票所ニ充ツヘシ
- 第六條 投票所ノ開閉ハ標榜又ハ鐘鼓ヲ以テ之ヲ報スヘシ
- 第七條 投票所ハ午前六時三十分ニ其門戸ヲ開キ午後六時ニ之ヲ閉ツヘシ
- 第七條 投票所ハ別紙第五號甲乙ノ式ヲ標準トシ選舉人員ノ多少ニ依テ適宜之ヲ斟酌シ受付所 選舉人控所 投票用紙交
付所 投票記載所 投票ノ場所等ヲ區別シ之ヲ設クヘシ
- 第八條 午前七時ニ於テ投票所管理者ハ參會シタル選舉人ヲ投票用紙交付所ノ入口ニ招集シ選舉法第三十六條ニ依リ立
會人ト共ニ投票函ノ空虛ナルコトヲ選舉人ニ示シ且選舉人ノ面前ニ於テ其第一蓋ノ錠ヲ卸シ之ヲ投票所管理者及立會
人列席ノ卓上ニ置キタル後到着番號ノ順序ニ依リ適宜選舉人姓名ツ、ヲ呼出シ投票用紙交付所ニ入ラシメ選舉法施行
規則第十九條ノ手續ヲ爲シ投票用紙ヲ交付スヘシ

第九條 選舉人ニ投票用紙ヲ交付シタルトキハ投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニ於テ記載セシメ直ニ投票ヲ爲サシムヘシ

投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニハ呼入レタル各選舉人過滞ナク記載シ得ル女ニ數箇ノ筆硯墨ヲ備ヘ置クヘシ

第十條 選舉人出入ノ門戸及投票所出入口等ハ警察官吏又ハ特ニ設ケタル取締人ニ於テ取締ヲ爲スヘシ

第十一條 投票函ヲ開錠スルトキハ直ニ其第二蓋ノ錠ヲ卸シ其第一蓋ノ錠ハ立會人ニ於テ保管シ第二蓋ノ錠ハ投票所管
理者之ヲ保管スヘシ

第十二條 投票明細書ハ別紙第六號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

第十三條 選舉法施行規則第二十三條ニ依リ被選人ノ得票ヲ記入スヘキ賸數簿ハ別紙第七號ノ式ニ依リ之ヲ開製シ其記
入毎ニ之ヲ記入スル書記ノ一人其被選人ノ得票ヲ呼フヘシ

第十四條 選舉明細書ハ別紙第八號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

選舉明細書ハ別紙第九號ノ式ニ依ルヘシ

第十五條 選舉法第六十五條ニ依リ府縣知事ヨリ常選人ニ付與スヘキ當選證書ハ別紙第九號ノ式ニ依ルヘシ

第十六條 投票所ハ何郡(市區)何町村投票所ト記シ選舉會場ハ衆議院議員第何區選舉會場ト記シ各其門戸ニ之ヲ掲クヘ
シ

書式ハ別三項ツ(書式略ス)

〔四〕府縣會規則市町村制衆議院議員選舉法ニ記載ノ官吏

第六十二
三項ニ掲ク

第六十一 貴族院令竝ニ貴族院伯子男爵議員選舉規則及貴族院多額

納稅者議員互選規則施行 明治二十三年二月二十八日公布

朕嚮ニ公布セシムル所ノ貴族院令竝ニ貴族院伯子男爵議員選舉規則及貴族院多額納稅者議

員互選規則ヲ本年ヨリ施行スルコトヲ命ス但シ未タ一般ノ地方制度ヲ進行セサル北海道沖
細縣及小笠原島ニ於テハ仍貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ効力ヲ及ホサス
貴族院令第四條ニ依リ伯子男爵ハ本年ノ選舉期ニ於テ各左ノ員數ヲ選舉スヘシ

伯爵	十五人
子爵	七十八
男爵	二十八
御名	御靈

明治二十三年二月二十七日

内閣總理大臣兼內務大臣伯爵山縣有朋

〔一〕貴族院伯子男爵議員選舉規則 明治二十二年六月五日公布

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院伯子男爵議員選舉規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令

ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御靈

明治二十二年六月四日

勅令第七十八號

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

貴族院伯子男爵議員選舉規則

第一條 伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選舉ス

第二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行
フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條 貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選舉ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之ヲ指
定スヘシ

第六條 爵位局長官ハ選舉ノ期日ヨリ五十日前ニ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ
各別ニ調製シ選舉資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ二十日前ニ之ヲ確定シテ各選舉管理者
ニ交付スヘシ

第七條 選舉ハ伯子男爵ノ選舉資格ヲ有スル者ヨリ各一人ノ選舉管理者ヲ互選シテ之
ヲ管理セシム

選舉管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ

選舉管理者ハ選舉及被選ノ權ヲ妨ケラル、コトナシ

第八條 各選舉管理者ハ選舉人ノ中ヨリ各其ノ同爵ノ選舉立會人二人以上ヲ指定シテ
選舉會場ニ參會セシムヘシ

第九條 選舉ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第十條 選舉人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ

第十一條 選舉人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサル

トキハ同箇中ノ他ノ選舉人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證狀ト共ニ委託ヲ受ク

ル者ニ送付スヘシ

第十二條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ

定ムヘシ

第十三條 前數條ニ掲ケタル者ノ外選舉ニ關ル一切ノ規程ハ選舉資格ヲ有スル伯子男爵

ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條 當選人確定シタルトキハ選舉管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長

ニ報告スヘシ

第十五條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ

署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第十六條 議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フ

ヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

補闕選舉ヲ行フノ手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第十七條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十八條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以内ト

ス

第十九條 選舉ニ關ル費用ハ同箇者ノ支辨タルヘシ

〔二〕貴族院多額納稅者議員互選規則 明治二十二年六月五日公布

勅令第七十九號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅

令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

明治二十二年六月四日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第七十九號

貴族院多額納稅者議員互選規則

第一條 貴族院令第六條ニ依リ貴族院議員ヲ互選スル者ハ互選名簿調製ノ期日ヨリ前滿

一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及

納稅スル者タルヘシ

第二條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其財産ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅

資格ニ算入ス

第三條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ互選人タルコトヲ得ス

第四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ互選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

三 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

四 舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 衆議院議員ノ選舉ニ關ル犯罪ニ依リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第五條 陸海軍軍人ハ現役中互選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第六條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ互選人タルコトヲ得ス

第七條 互選人選舉ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ互選名簿ヨリ除名セララルヘシ

第八條 府縣知事ハ選舉ヲ行フノ年四月一日ヲ期トシ其ノ府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル

者十五人ノ名簿ヲ調製スヘシ

互選名簿ハ互選人ノ姓名、職業、身分、住所、生年月、土地或ハ工業商業ニ付納ムル所ノ直

接國稅ノ細別及總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第九條 納稅同額ノ者アルトキハ生年月ノ長者ヲ先ニシ同年月ノ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 府縣知事ハ四月二十日マテニ互選名簿ヲ各互選人ニ配付シ併セテ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十一條 互選資格ヲ得ヘキ者ニシテ自ラ互選名簿ニ記載セラレサルコトヲ發見シタルトキハ告示ノ後十五日以内ニ其ノ理由書及證據ヲ具ヘテ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

凡テ互選資格ヲ得タル者ハ互選資格ヲ得ヘカラサル者ノ互選名簿ニ記載セラレタルコトヲ發見シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ改正ヲ求ムルコトヲ得

第十二條 府縣知事申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第十三條 互選名簿ハ六月一日ヲ以テ確定期限トス

第十四條 選舉ハ六月十日府縣廳ニ於テ之ヲ行ヒ府縣知事又ハ其ノ代理者之ヲ管理ス

第十五條 府縣知事ハ投票ノ時刻ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ七日前ニ各互選人ニ通知書ヲ發スヘシ

第十六條 互選人ハ自ら選舉會場ニ至リ投票スヘシ
 投票ハ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名ヲ記載スヘシ
 第十七條 互選人疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書又ハ事由書ヲ具ヘ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シテ之ヲ他ノ互選人ニ委託スルコトヲ得
 第十八條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢シ其ノ結果ヲ告知スヘシ但シ當選人其ノ場ニ在ラサルトキハ文書ヲ以テ速ニ其ノ由ヲ本人ニ通知スヘシ
 第十九條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉管理者之ヲ決定ス
 第二十條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
 投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第二十一條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭スルトキハ次ノ投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トスヘシ
 當選人當選ヲ辭スルコトヲ得ルハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ限ル
 第二十二條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選人ノ資格及選舉ノ顛末ヲ錄シテ内閣總理大臣ニ報告スヘシ
 第二十三條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第二十四條 議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ其ノ府縣ニ命スヘシ
 補闕選舉ヲ行フノ時期及手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ
 第二十五條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル
 第二十六條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ開會ノ後十日以内トス
 (三) 貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方 明治二十三年三月十日 內務省訓令第七號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
 明治二十二年^六勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方左之通心得ラルヘシ
 第一條 貴族院令第六條三項^三及^四アルハ其選舉期日(六月十日)前滿三十歳ニ達スル者ヲ指ス
 第二條 互選規則第一條ニ其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居トアルハ衆議院議員選舉法施行規則第二條ノ例ニ異ナラス
 第三條 互選規則第一條ニ多額ノ直接國稅トアルハ地租及土地又ハ工業商業ノ利益ヨリ生スル所得納稅額而已ヲ合算シテ名簿編製ノ期日(四月一日)前滿一年以上多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ納ムルモノヲ云
 第四條 賣買讓與ニ依リ土地所有權移轉ノ場合ニ於テ其所有ノ年限及賃入地ノ地租及數人共有ノ土地ヨリ納ムル地租ノ計算方及互選規則第三條ニ神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師トアルハ凡テ衆議院議員選舉法施行規則第三條第二項及同則第四條第五條第九條ノ例ニ異ナラス
 第五條 貴族院令第六條ニ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者トアル中ニハ華族(公侯爵)ノ當主ヲモ包含ス
 第六條 貴族院令第六條ニ云フ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其任期中納稅額ノ減スルコトアルモ同令第十條ノ場合ニアラサレハ其議員ノ資格ヲ失ハサルハ勿論ナリトス
 第七條 互選ニ關スル費用ハ府縣廳費ノ支辨ニ屬ス
 (四) 貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則 明治二十三年十月十一日公布 勅令第二百二十一號
 朕貴族院開會ノ始ニ於テ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決スルノ緊要ニ屬シ而シテ時ニ及テ

自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ勅令ニ由リ貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則ヲ公布セシム此ノ勅令ハ貴族院ニ於テ規則ヲ制定シテ更ニ裁可ヲ經ルマテノ間効力ヲ有スヘシ

御名 御璽

明治二十三年十月十日

- 内閣總理大臣伯爵山縣有朋
- 內務大臣伯爵西鄉從道
- 司法大臣伯爵山田顯義
- 大藏大臣伯爵松方正義
- 陸軍大臣伯爵大山巖
- 遞信大臣伯爵後藤象二郎
- 外務大臣子爵青木周藏
- 海軍大臣子爵樺山資紀
- 文部大臣 芳川顯正
- 農商務大臣 陸奥宗光

勅令第二百二十一號

貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則

第一條 貴族院ハ每會期ノ始ニ於テ貴族院議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ審査スル爲ニ

常任委員ヲ選舉スヘシ

第二條 伯子男爵議員ノ各選舉人又ハ多額納稅者議員ノ互選人貴族院令第九條ニ依リ出訴スル者ハ當選議員ヲ被告トスヘシ

第三條 原告人ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作り之ヲ議長ニ差出スヘシ議長訴狀ヲ受取リタルトキハ之ヲ資格審査委員ニ付ス

第四條 訴狀ニハ請求ノ要領理由及立證ヲ具ヘ原告人自ラ署名スヘシ

第五條 資格審査委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告人ニ送達シ期日ヲ定メ被告人ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ

委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第六條 原告被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ期限ニ算入セス

第七條 資格審査委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選舉ニ關ル證憑文書ヲ政府ニ要求スルトヲ得

第八條 審査ノ結果ニ因リ刑法ニ觸ル、ノ事件ヲ發見シタルトキハ議長ヨリ之ヲ司法大臣ニ通告スヘシ但シ之カ爲ニ審査及判決ヲ中止セス

第九條 被告人期日內ニ答辯書ヲ差出サハルトキハ資格審査委員ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

天災事變ニ因リ期日内ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スル者アルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ差出サシムルコトヲ得

第十條 資格審査委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第十一條 議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事録ニ依リ議決ノ謄本ヲ作ラシメ之ヲ原告被告ニ送達スヘシ

議院ノ判決ハ理由ヲ付セス

第十二條 貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不法ト判決シタルトキハ議長ハ其ノ位列ヲ停止シテ奏上スヘシ

第十三條 被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クルマテ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自己ニ關ル争訟ニ付テハ自己又ハ他ノ議員ニ託シ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

被告議員ハ自己ニ關ル争訟ニ付テハ委員會ニ參スルコトヲ得ス

第十四條 補闕議員ノ選舉開院中ニ在ルトキハ伯子男爵ニ在テハ當選確定ノ後多額納稅者ニ在テハ勅任セラレタル後十日ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タヌシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ仍次會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ第三條第四條第五條

第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ノ例ニ依リ審査及判決スヘシ但シ此ノ

場合ニ於テハ貴族院伯子男爵議員選舉規則第十八條及貴族院多額納稅者議員互選規則第二十六條ニ掲ケタル期限ノ限ニ在ラス

(五) 貴族院議員選舉ニ應シタル者宮内省部局職務ヲ兼マルヲ得ス 明治

二十

三年七月八日

宮内省達第十二號 貴族院議員ノ選舉ニ應シタル者ハ宮内省中左ノ部局ノ職務ヲ兼マルコトヲ得ス

侍從職

式部職

皇太后宮職

皇后宮職

東宮職

大膳職

主殿寮

主馬寮

主藏局

帝室會計審査局

皇族家職

明治二十三年七月八日

奉勅

宮内大臣子爵土方久元

第六十二 府縣會規則

〔一〕府縣會議員選舉ニ衆議院議員選舉法罰則補則適用 明治二十三年五月三十日公布

法律第四十一號

朕府縣會議員選舉ニ衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月二十九日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

内務大臣伯爵西郷從道

司法大臣伯爵山田顯義

法律第四十一號

法律第六號ハ初編第五十四ノ四項ニ掲ク

明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則ニ依ル選舉ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用ス但其ノ第二條第一項ニ衆議院議員選舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十二條其ノ第二條第二項ニ衆議院議

員選舉法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十三條ヲ適用スルモノトス

府縣會議員選舉規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セス

〔二〕府縣制郡制施行ニ際シ府縣會議員ノ選舉區域 第六十四ノ一項ニ掲載ス

〔三〕府縣會規則市制町村制衆議院議員選舉法ニ記載シタル官吏 明治二十二年六月四日勅令第十八號

府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議院議員選舉法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノミニ限ルモノトス非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

第六十三 市町村會議員罰則 明治二十三年五月三十日公布

法律第三十九號

朕市町村會議員選舉罰則ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月二十九日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

内務大臣伯爵西郷從道

司法大臣伯爵山田顯義

法律第三十九號

市町村會議員選舉罰則

第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二回以

第三類 第一章 議會

上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス

其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲ニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ沐浴料ノ類ヲ代辦シ又ハ代辦スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス

其代辦又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百二十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 選舉人ヲ脅逼シ若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 選舉ノ際選舉ニ關スル吏員若クハ選舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ

罰金ニ處ス

四百四十八

第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 選舉會場所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用非ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノノ外刑法ニ正條アルモノハ各其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二章 府縣郡市町村 水利組合

第六十四

府縣制ヲ制定シ本制施行ノ日ヨリ府縣會規則區郡都會規則府縣會議員選舉規則等ヲ廢ス

明治二十三年五月十七日公布
法律第三十五號

朕府縣制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十七日

内閣總理大臣兼內務大臣伯耆山縣有朋

法律第三十五號

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣境界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ府縣境界モ亦自ラ變更スルモノトス
本條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣之ヲ定ム但特ニ法律ノ規定アルモノ

第三類 第二章 府縣郡市町村 水利組合

四百四十九

市制町村制
初編第五十
七第四條參
看

ハ此限ニ在ラス

第二章 府縣會

第二條 府縣會ハ府縣内郡市ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス
郡市ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但各郡市ヲシテ少クトモ

一人ノ議員ヲ選舉セシムヘシ

第三條 府縣會議員ノ選舉ハ市ニ在テハ市會及市參事會同シ市長ヲ會長トシ郡ニ在テハ
郡會及郡參事會同シ郡長ヲ會長トシ左ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但會長ハ投票ニ加ハ
ラサルモノトス

一 投票ハ選舉人自ラ會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス

投票ハ匿名トス

二 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在
ラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其効アリトス

三 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキモノハ年長者ヲ取り年
齡相同キトキハ會長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

第四條 府縣内市町村ノ公民中選舉權ヲ有シ其府縣ニ於テ一年以來直接國稅十圓以上ヲ納
ムル者ハ府縣會ノ被選權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同府縣内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハ
サルトキハ仍府縣會ノ被選權ヲ有ス

其府東京府ハ警視廳トモ縣ノ官吏及有給吏員神官諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ府縣會議員タルヲ得ス
前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第五條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ毎二年其半數ヲ改選ス若其員數二分シ
難キトキハ初會ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初會ニ於テ解任スヘキ者ハ府縣會議長府
縣會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム

解任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第六條 議員中議員アルトキハ遅クトモ六箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第七條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遅クトモ選舉ノ
日ヨリ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

第八條 選舉ヲ終リ當選人ノ定マリタルトキハ郡長市長ハ直ニ當選人ニ通知シ及府縣知事ニ報告スヘシ

當選人其當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ府縣知事ニ届出ヘシ

前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サハルトキハ總テ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

第九條 當選人其當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ府縣知事ハ其郡市ヲシテ十日以内ニ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第十條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第十一條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ルコトヲ得

第十二條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セサリシコト發覺スルトキハ其當選ヲ無効トス

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第十三條 府縣會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第十四條 府縣會議員被選舉權ノ有無及選舉ノ効力ハ府縣參事會之ヲ裁決ス

府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 府縣ノ歳入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ヲ認定スル事

三 府縣稅ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四 府縣有不動産ノ賣買交換讓渡受並ニ質入借入ノ事

五 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

六 府縣有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事

其他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第十六條 府縣會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第十七條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

府縣會ハ其府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付府縣知事又ハ内務大臣ニ建議スルコトヲ得

第十八條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス

第十九條 府縣會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選スヘシ其任期ハ議員ノ任期ニ從フ

議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時議長ヲ互選スヘシ

第二十條 府縣知事若ハ特ニ知事ノ委任ヲ受ケタル府縣ノ官吏若ハ吏員ハ府縣會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ

第二十一條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク通常會ノ會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限リ七日以内ヲ會期トシテ臨時會ヲ開クコトヲ得

府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第二十二條 府縣會ハ議員二分ノ一以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 府縣會ノ議決ハ過半数ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十四條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ府縣會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十五條 府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第三條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員五名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用非スシテ其可否ヲ決スヘシ

第二十七條 東京府京都府大阪府會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京府京都府大阪市ニ關スルモノト專ラ其他ノ部分ニ關スルモノト分別スルコトヲ得又此場合ニ於テハ郡部議員市部議員ニ於テ各臨時議長ヲ互選スヘシ

前項ノ分別ニ依リ專ラ東京府京都府大阪市ニ關スルモノハ其郡部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其他ノ部分ニ關スルモノハ市部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得又此場合ニ於テハ郡部議員市部議員ニ於テ各臨時議長ヲ互選スヘシ

此法律中東京府京都府大阪府會ノ市部議員トアルハ東京府京都府大阪府市會ニ於テ選舉シタル議員ヲ云ヒ郡部議員トアルハ東京府京都府大阪市ヲ除キ其他ノ部分ニ於テ選舉シタル議員ヲ云フ

第二十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ並ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用非及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第三十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終

ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退去セシムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第二十一條 議員中議場ノ秩序ヲ紊ルコト二回以上ニ及フ者アルトキハ議長又ハ議員ノ發議ニ依リ議會ノ議決ヲ以テ七日以内其出席ヲ停止スルコトヲ得

第三十二條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧嘩ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退場セシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第三十三條 府縣知事若ハ特ニ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第三十四條 第三十條第三十二條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲府縣知事東京府ハ警察總監ハ每會期警察官ニ議場掛事務ヲ命ヌヘシ

第三十五條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム
書記ハ議長之ヲ選任ス

第三十六條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前議會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第三十七條 府縣會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ内務大臣ノ認可ヲ受テ之ヲ施行スヘシ

第三章 府縣參事會吏員及委員

第三十八條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トス郡部議員ニ於テ其議員中ヨリ四名ヲ互選シ市部議員ニ於テ其議員中ヨリ四名ヲ互選スヘシ

縣ノ名譽職參事會員ハ四名トス縣會ニ於テ其議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第三十九條 府縣參事會員タル高等官ハ府縣廳ニ奉職ノ高等官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

第四十條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ高等官會員之ヲ代理ス

第四十一條 府縣會ハ每通常會ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員府ハ八名縣ハ四名ヲ互選シ其名譽職參事會員ノ闕員アルトキハ府縣知事ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十二條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二箇月以

内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ

第四十三條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
- 二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決ヲ爲ス事
- 三 府縣會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ府縣有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
- 四 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
- 五 府縣知事及其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事
- 六 府縣知事ヨリ發スル府縣會議案ニ付府縣知事ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事
- 七 臨時必要アルトキ府縣ノ出納ヲ檢査スル事

其他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第四十四條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

第四十五條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 府縣參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員半數以上出席スルニ非ラサレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但第四十三條第二ノ議決ヲ爲ストキハ高等官會員ハ其

議決ニ加ハラサルモノトス

府縣參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第四十七條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第三十八條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第四十八條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二府縣以上ノ郡市町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其事件ヲ管轄スヘキ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第四十九條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大阪府市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京都市大阪府市外ノ市町村若ハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

此法律中東京府京都府大阪府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ市部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云ヒ郡部名譽職參事會員トアルハ郡部議員ニ於テ選舉シタル名譽

議決ニ加ハラサルモノトス

府縣參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第四十七條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第三十八條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第四十八條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二府縣以上ノ郡市町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其事件ヲ管轄スヘキ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第四十九條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大阪府市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京都市大阪府市外ノ市町村若ハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

此法律中東京府京都府大阪府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ市部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云ヒ郡部名譽職參事會員トアルハ郡部議員ニ於テ選舉シタル名譽

議決ニ加ハラサルモノトス

府縣參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第四十七條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第三十八條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第四十八條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二府縣以上ノ郡市町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其事件ヲ管轄スヘキ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第四十九條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大阪府市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京都市大阪府市外ノ市町村若ハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

此法律中東京府京都府大阪府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ市部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云ヒ郡部名譽職參事會員トアルハ郡部議員ニ於テ選舉シタル名譽

職參事會員ヲ云フ

第五十條 府縣知事ハ府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ施行シ及府縣有財産及營造物ヲ管理シ
並ニ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス
府縣ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ知事ノ外名譽職參事會員二名
以上之ニ署名捺印スヘシ
前項ノ文書中府縣會又ハ參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモハ總テ其
旨ヲ記入スヘシ

第五十一條 府縣會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ應セ
サルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル迄府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件
ヲ專決處分スルコトヲ得
非常事變ニ際シ府縣參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至
ラサルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

第五十二條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ費用ヲ以テ府縣有財産又ハ營造物ノ管
理若ハ土木工事ニ必要ナル有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得但府縣吏員ハ府縣知事ニ於テ
之ヲ任免監督ス

府縣吏員ノ給料手當退隱料等ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其

金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ府縣事務ノ一部ヲ
調査セシメ又ハ府縣有財産及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得其選舉又ハ選任ノ方
法及任期ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル
委員ハ名譽職トス

第四章 府縣ノ會計

第五十四條 府縣有財産及營造物管理ノ費用府縣會府縣參事會及委員ノ費用府縣吏員ノ給
料退隱料其他諸給與及從來法律命令若ハ慣例ニ依リ並ニ將來法律勅令ニ依リ府縣ノ負擔
ト定ムル事件ノ費用ハ府縣ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第五十五條 名譽職參事會員及委員ニハ旅費滞在手當及出務日當ヲ給スルコトヲ得府縣會
議員ニハ旅費及滞在手當ニ限り之ヲ給スルコトヲ得但滞在手當出務日當ヲ併セ一日一圓
五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十六條 府縣ノ支出ハ府縣稅其他府縣ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條 府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除
クノ外從前地方稅ニ關スル規定ニ依ル

第五十八條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其府縣ノ全
部若ハ市制施行ノ地ニ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦

課スルコトヲ得ス

第五十九條 府縣内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲ス者ハ其土地家屋營業ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

府縣内ニ一戸ヲ構ヘ三箇月以上ニ及フ者ハ其戸數ニ對シテ府縣稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ一戸ヲ構ヘタル初ニ遡リ徵收スヘシ

第六十條 府縣稅ノ賦課ニ付テハ納稅者其府縣外ニ於テ店舗ヲ定メタル營業ノ收入ヲ其標準ニ算入スルコトヲ得ス

第六十一條 府縣會ハ各市町村内ニ於テ徵收スル府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項市町村會ノ議決ハ法律命令又ハ府縣會ノ議決ニ抵觸スルコトヲ得ス
市町村會ニ於テ府縣會ノ指定シタル期限内ニ其議決ヲ爲サ、ルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第六十二條 營業ノ狀況又ハ收入ヲ標準トシテ賦課スル府縣稅ニ付テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ賦課額調査ノ爲其府縣内郡市ニ調査委員ヲ置クコトヲ得

第六十三條 府縣稅ノ免除ハ市町村稅免除ノ規定ニ依ル

第六十四條 府縣會ハ府縣内郡市町村ノ土木工事又ハ府縣内ノ教育衛生勸業及慈善ノ事業

若ハ營造物ニ對シ補助金ヲ與フルコトヲ議決スルコトヲ得

第六十五條 府縣會ハ家屋稅又ハ戸數割ノ全部又ハ一部ノ代納トシテ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニ對シ夫役又ハ現品ヲ出スヲ許スコトヲ議決スルコトヲ得

第六十六條 府縣稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但日割ヲ以テ徵收スルモノハ此限ニ在ラス、
納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ當該官廳ニ届出ヘシ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スヘシ

物件ヲ目的トシ納期ヲ定メテ一定ノ額ヲ賦課スル府縣稅ハ其納期ニ於テ納稅義務ヲ負フ者其額ヲ納ムヘシ

府縣稅ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル場合ト雖之ヲ還付セス但其義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其前納期限ノ終迄納稅セサルモノトス

第六十七條 府縣稅ハ法律命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除クノ外各市町村長ニ於テ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

第六十八條 府縣稅ノ賦課ニ對シ錯誤アルコトヲ發見シタル者ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ其傳令書ヲ發シタル廳ニ申立ルコトヲ得但申立ノ爲其納稅ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十九條 前條ノ申立ヲ爲シタル後二十一日以内ニ其更正ヲ得サルトキ又ハ其更正ヲ得

ルモ之ニ不服ナルトキハ十四日以内ニ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ其裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但市ニ在テハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十條 府縣稅ノ免稅若ハ納稅延期ハ特別ノ事情アルモノニ限リ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

府縣稅ノ滯納處分ハ國稅滯納處分法ニ依ル

第七十一條 東京府京都府大阪府ニ在テハ府ノ支出ニ充ツヘキ府稅ヲ市部及郡部ニ分賦ス其分賦ノ割合ハ府會ニ於テ之ヲ議決シ內務大臣ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ

前項市部ノ分賦額ハ市ニ於テ之ヲ市ノ豫算ニ編入シ市稅トシテ徵收シ其總額ヲ府金庫ニ納ムヘシ郡部ノ分賦額ハ此法律ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス但市部議員ハ其徵收ニ關スル議事ニ參與シ及議決ニ加ハラサルモノトス此場合ニ於テ若議長副議長市部議員ナルトキハ郡部議員ニ於テ臨時議長ヲ互選スヘシ

第七十二條 市制施行ノ府縣ニ在テハ郡廳舎建築修繕費郡吏員給料旅費及廳費ハ市ヲ除キ其他ノ部分ノミヲシテ其負擔ニ任セシムヘシ

前項ノ府縣ニ在テハ其府縣ノ支出費目中市ハ其他ノ部分ト利害ノ厚薄ヲ異ニシ均一ノ負擔ニ任セシムルコトヲ得サルモノアルトキハ其費目ニ限リ其一方ノ負擔ヲ增加スルコト

ヲ得但負擔ノ割合ハ府縣會ニ於テ之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ確定ス

第一項ノ負擔ニ任セシメ及第二項ニ依リ一方ノ負擔ヲ增加スルハ賦課ノ稅率ヲ增加スルニ止メ其會計ヲ異ニスルコトヲ得ス但東京府京都府大阪府ニ在テハ前條ニ依ル

前項ニ依リ稅率ヲ增加スヘキ稅目ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

第七十三條 府縣內ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ府縣會ノ議決ニ依リ該部分ニ對シ通常府縣稅賦課ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ增課スルコトヲ得

第七十四條 府縣ハ其舊債元額ヲ償還スル爲又ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルキハ府縣ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣會ノ議決ヲ以テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スノ議決ヲ爲スキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

府縣債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

歲入出豫算內ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニアラス但府縣參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第七十五條 府縣知事ハ毎年其翌年度ニ係ル歲入出豫算ヲ調製スヘシ但府縣ノ會計年度ハ

政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ府縣會ノ議決ニ付スルノ前府縣參事會ノ審查ニ付スヘシ若府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ知事ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得
第七十六條 豫算ハ毎年府縣會ノ議決ヲ取リ之ヲ內務大臣ニ報告シ並ニ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ其府縣有財產表ヲ提出スヘシ

第七十七條 歲入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第七十八條 府縣ノ收支命令ハ府縣知事之ヲ發スヘシ

第七十九條 會計事務ヲ管理スル官吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支

拂ヲ爲スコトヲ得ス

第八十條 決算ハ會計事務ヲ管理スル官吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ府縣參事會ヲシテ之ヲ檢査セシメ次回ノ通常府縣會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並ニ之ニ關スル府縣會ノ議決ハ府縣知事ヨリ之ヲ內務大臣ニ報告シ並ニ決算ハ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第八十一條 府縣ノ行政ハ內務大臣之ヲ監督ス

第八十二條 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以內ニ其理由ヲ具シテ內務大臣ニ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以內ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
第八十三條 內務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ內務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徵シ並ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閱スルノ權ヲ有ス

第八十四條 府縣會又ハ府縣參事會ノ議決公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示

シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ直ニ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ超エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ其議決ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ府縣知事ノ處分ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ於テ府縣ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但内務大臣ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十六條 府縣會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十七條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ招集前正當ノ手續ヲ以テ告知セラレタル議案ヲ第二十一條第一項ニ定メタル期限内ニ議了セサル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セス又ハ議了セサル議案歲入出豫算ニ係リ内務大臣ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

トヲ得

第八十八條 内務大臣ハ府縣ノ歲入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其府縣ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當セル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十九條 府縣會ノ解散ハ勅令ヲ以テス此場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ改選スヘシ
前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス
府縣會解散ノ後改選了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第九十條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 新ニ府縣債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事
 - 二 地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ土地ニ賦課スル事
 - 三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
- 第九十一條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 府縣有不動産ノ賣却讓渡並ニ質入書入ノ事
 - 二 第七十二條第二項ニ依リ市若ハ其他ノ部分ノ負擔ヲ増加スル事

二十三年法律
第四十八號
(第百十五)
ヲ以テ行政裁
判法ヲ定ム

三 第七十三條ニ依リ府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事
四 第七十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第九十二條 行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ
行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ行フヘシ

第九十三條 市制町村制施行ノ爲定ムル直接税ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦之ヲ適用
ス

市制町村制郡制及此法律施行ノ爲將來ノ諸税ニ付直接税ト爲スヘキモノハ内務大臣及大
藏大臣之ヲ告示スヘシ

第九十四條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府
縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十五條 此法律施行ノ後ハ市制第百二十二條第三ニ定ムル附加税徴收ノ許可ハ東京市
京都市大阪市ニ在テハ地租七分ノ三、二五(二十八分ノ十二)其他ノ市ニ在テハ其七分ノ
一、五(十四分ノ三)ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス

第九十六條 府縣内ニ在ル島嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ク
郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其制
ヲ定ム

第十五號布告
ハ初編第五十
四、第八號布
告ハ同一項ハ
第六號布告ハ
同六項ニ掲グ

第九十七條 明治十三年四月第十五號布告府縣會議規則明治十四年二月第八號布告區郡部會
規則明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法
律施行ノ府縣ニ於テ施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十八條 内務大臣ハ此法律施行ノ實ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ
(一)府縣制郡制施行ノ際議員選舉區域地方稅備荒儲蓄金處分方郡費支
辨方法府縣事業ニ關スル諸件 明治二十三年九月二十日公布
法律第八十五號

府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選舉區域地方稅收支豫算地方稅財產
備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣ノ急進事業ニ關スル諸件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

御名 御璽

明治二十三年九月十九日

内閣總理大臣伯耆山縣有朋
内務大臣伯耆西鄉從道

法律第八十五號

第一條 郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ衆議院議員ノ
選舉ハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

第二條 郡制施行ニ際シ郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣會議員
ハ次回ノ定期改選ニ至ルマテ之ヲ改選セズ又其ノ定數ヲ増減セズ其ノ補缺選舉ヲ行フ

第三類 第二章 府縣郡市町村 水利組合

ヘキトキハ仍ホ従前ノ區域ニ依ル

第三條 府縣制施行前府縣會ニ於テ議定シタル歲入出豫算中府縣制施行ニ至リ法律命令ノ結果ニ依リ異動ヲ生シ更正ヲ要スルモノアルトキハ新ニ組織スル府縣會ニ於テ之ヲ更正スヘシ其ノ他ハ總テ従前府縣會議決ノ効ヲ存ス

第四條 東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來郡市地方税ノ經濟ヲ異ニシ其ノ地方税經濟ニ屬スル財産ヲ郡市ニ分屬セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ縣有財産トス

第五條 東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來備荒儲蓄金ヲ郡市ニ分別セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ備荒儲蓄金トス

第六條 郡制施行ノ後郡費ヲ收入スルニ至ルノ間必要ナル郡ノ支出ハ郡長ニ於テ概算ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ得テ假ニ地方税ヲ以テ支辨シ追テ郡費ヲ以テ償還スヘシ

第七條 府縣制郡制施行ノ後府縣參事會郡參事會就職ニ至ルマテノ間其ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノアルトキハ府縣參事會ノ職務ハ府縣知事郡參事會ノ職務ハ郡長代テ之ヲ執行スヘシ

(二) 郡歲入出豫算調製式 明治二十四年四月十三日 內務省令第二號

郡制第六十五條第三項ニ依リ郡歲入出豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ノ規定ヲ設ケ
第一條 郡歲入出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 歲入出豫算ニハ都會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ
第三條 歲入出豫算ニハ六條第二項ノ年及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ
夫役現品ヲ附屬スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ

第四條 歲入出中更ニ科目ヲ設ケルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス
第五條 各款項ノ豫算金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス
各目豫算金額ニシテ不得已流用ヲ要スルノ必用アルトキハ都會參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

(第一號)

明治何年度某府縣某郡歲入出豫算書

歲入

經常費

第一款 財產收入

第一項 不動產收入

第二項 動產收入

第二款 雜收入

第一項 投業料

第二項 物品賣拂代

第三款 各町村分賦額

第一項 各町村分賦額

經常部合計金

臨時部

金 金 金 金 金 金 金 金 金 金

第一款 繰越金	金
第二項 前年度繰越金	金
第二款 府縣補助金	金
第一項 某費補助金	金
第二項 某費補助金	金
第三款 寄附金	金
第一項 某費寄附金	金
第二項 某費寄附金	金
第四款 財産費排代	金
第一項 公債証券費排代	金
第五款 郡債	金
第一項 郡債	金
臨時部合計金	金
歳入總計金	金
歳出	金
經營部	金
第一款 會議費	金
第一項 郡會議費	金
第二項 郡參事會議費	金
第二款 郡吏員費	金

第一款 吏員費	金
第二款 委員費	金
第三款 土木費	金
第一項 道路橋梁費	金
第二項 治水堤防費	金
第三項 港灣費	金
第四款 教育費	金
第一項 某學校費	金
第五款 衛生及病院費	金
第一項 衛生費	金
第二項 某病院費	金
第六款 救助費	金
第一項 養育費	金
第七款 勸業費	金
第一項 勸業會費	金
第二項 植物試驗費	金
第八款 財産費	金
第一項 維持費	金
第二項 管理費	金
第九款 豫備費	金

第三類 第二章 府縣郡市町村 水利組合

第一項 豫備費	金
經常部合計金	金
臨時部	
第一款 土木費	金
第二項 道路橋梁費	金
第二款 其費本年度支出額	金
第一項 其費ノ内其費	金
本年度支出額	金
第三款 郡債費	金
第一項 元金償還	金
第二項 郡債利子	金
第三項 雜費	金
臨時部合計金	金
歳出總計金	金
明治何年何月何日提出	
(第二號)	
自明治何年度	某府縣某郡長 氏名 印
至同 何年度	其費中
某府縣某郡其費總額年額及支出方法	某費
一金	
內課	
金	明治何年度支出額

右云々(議決ヲ要スヘキ事業ノ大要ヲ記載ス)	同 何年度支出額
明治何年何月何日提出	
(第三號)	
明治何年度某府縣某郡其費現品附議方法	某府縣某郡長 氏名 印
一 土木費中其費夫役	若干人
此見積金	
內課	
若干人	某町
此見積金	
若干人	某村
此見積金	
同現品	若干
此見積金	
內課	
若干	某村
此見積金	
若干	某村
此見積金	
若干	某村

第三類 第二章 府縣郡市町村 水利組合

第六十五

郡制ヲ制定シ本制施行日ヨリ郡區町村編制法ヲ廢ス 明治二十三年

五月十七日公布
法律第三十六號

朕郡制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十七日

内閣總理大臣兼內務大臣伯耆山縣有朋

法律第三十六號

郡制

第一章 總則

第一條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ郡界モ亦自ラ變更スルモノトス

第三條 第一條第二條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

市制町村制
初編第五十七
七 第四條

第二章 郡會

第四條 郡會ハ郡内町村ニ於テ選舉シタル議員及大地主ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 町村ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ每町村各一名トス

郡會議員ノ數二十名以上ニ及フトキハ二十名ヲ以テ制限トス此場合ニ於テ議員配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

郡會議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經其數ヲ増シテ十名ニ至ルコトヲ得其配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

本條議員配當法ハ郡内ノ町村數ニ増減アリタル場合ノ外初回ハ三年間爾後ハ十二年以上ニ至リ町村ノ人口ニ著シキ増減アルニ非サレハ改正セサルモノトス

議員配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改選スヘシ

第六條 一町村ニ於テ一名以上ノ議員ヲ選舉スルハ其町村會之ヲ行ヒ數町村ニ於テ一名若ハ一名以上ノ議員ヲ選舉スルハ其各町村會會同シテ之ヲ行フヘシ

第七條 町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ第四條乃至第六條ノ規定ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視シ其組合會ニ於テ議員選舉ヲ行フヘシ

第八條 大地主ハ町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ外其定數ノ三分ノ一ヲ互選スルモノトス若シ端數ヲ生スルトキハ之ヲ棄却スヘシ

選舉ヲ行フコトヲ得ヘキ大地主ニシテ其員數町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ三分ノ一以下ナルトキハ其大地主ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期改選ノ期限内ニ於テハ大地主ノ員數減シテ三分ノ一以下ニ至ルト雖解散ノ爲改選スル場合ヲ除クノ外ハ本項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第九條 大地主トハ郡内ニ於テ町村税ノ賦課ヲ受クル所有地ニシテ地價總計一萬圓以上ヲ有スル地主ヲ云フ

第十條 郡内町村公民ニシテ町村會ノ選舉ニ參與スルコトヲ得ヘキ者及大地主中自ら選舉ニ加ハルコトヲ得ヘキ者ハ總テ郡會ノ被選舉權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同郡内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍郡會ノ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ選舉ニ係ルト否トヲ問ハス郡會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府^{東京府ハ縣}縣^廳並ニ其郡ノ官吏
- 二 其郡ノ有給吏員
- 三 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師
- 四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選ニ應シ又ハ第八條第二項ノ權利ヲ行ハントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ケヘシ

第十一條 大地主ニシテ選舉權ヲ有スルハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル男子ニ限ル年齡二十歳未滿ノ者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ選舉權ヲ有セサルモノトス

大地主ノ選舉權ハ身代限處分中又ハ租稅滯納處分中又ハ公權ノ剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲裁判上ノ訊問若ハ勾留中ハ之ヲ停止ス

本條ノ規定ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タル者ニモ適用ス

第十二條 選舉權ヲ有スル大地主ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ代人ヲ以テスルニ非サレハ選舉ヲ行フコトヲ得ス

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ町村制ニ定メタル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ以テ代理ノ證トスヘシ

本條ノ規定ハ第八條第二項ノ權利ヲ行フ場合ニモ適用スルモノトス但其代人ハ郡會ニ被選舉權ヲ有スル者ニシテ郡會議員タラサル者ニ限ル

第十三條 郡會議員ハ名譽職トス

町村ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ每三年其半數ヲ改選ス若其員數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ者ハ郡會議長郡會ニ於テ自ら抽籤シテ之ヲ定ム

大地主ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ三年トシ每三年其全數ヲ改選ス解任ノ議員ハ再選セラルコトヲ得

第十四條 議員中關員アルトキハ遅クトモ六箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十五條 郡長ハ郡會議員改選前選舉權アル大地主ノ名簿ヲ製シ之ニ其資格ヲ記載シ其氏名ヲ告示スヘシ

關係者ニ於テ大地主名簿ノ正否ニ關シ異議アルトキハ告示後二十一日以内ニ郡長ニ申立テ其郡長ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

大地主名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與シ及第八條第二項ニ依リ郡會議員タルコトヲ得ス

大地主名簿ハ次ノ定期改選前ニ行フヘキ補闕選舉ニモ亦適用スルモノトス但大地主ノ資格ヲ失ヒ又ハ選舉權ノ要件ヲ失ヒタル者ハ之ヲ削除シ其氏名ヲ告示スヘシ其處分ニ對シ異議アルトキハ本條第二項ノ例ニ依ル

定期改選ノ期限内新ニ選舉權ヲ得又ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルノ權利ヲ得タル者ハ解散ノ爲メ改選スル場合ヲ除ク外期限内ニ於テ其名簿ニ登録セサルモノトス

第十六條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遅クトモ選舉ノ日ヨリ七日前ニ之ヲ發スヘシ

第十七條 選舉ノ順序ハ先ツ町村之ヲ行ヒ次ニ大地主之ヲ行フヘシ

町村ニ於テ行フ選舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシ但數町村會會同シテ行フ選舉ハ郡長又ハ郡長ノ指定スル町村長ヲ選舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

大地主ニ於テ行フ選舉ハ郡長ヲ選舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

第十八條 大地主ニ於テ選舉ヲ行フトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ
一 郡長ハ遅クトモ選舉ノ日ヨリ七日前選舉人ニ招集狀ヲ發シ選舉ノ場所日時ヲ告知スヘシ

二 選舉掛ハ選舉會長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ選任シタル立會人二名若ハ四名及選舉會長ヲ以テ之ヲ組織ス

選舉會長ハ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

三 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス

四 投票ハ選舉人自ラ選舉會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス
投票ハ匿名トス

五 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在

ラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其効アリトス
投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉會
長之ヲ決ス

六 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノ八年長ヲ取り年齡相
同キトキハ選舉會長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

七 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シテ署名ス
ヘシ

八 投票ハ選舉ノ効力確定スル迄之ヲ保存スヘシ

第十九條 選舉ヲ終リ當選人定マリタルトキハ町村會ニ於テ行フ選舉ニ在テハ町村長數町
村會同シテ行フ選舉及大地主ニ於テ行フ選舉ニ在テハ選舉會長直ニ當選人ニ通知シ町
村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ届出ヘシ
一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコト及選舉
ニ依ラスシテ郡會議員タルヘキ大地主ニシテ町村ノ選舉ニ當選シタルトキハ其選舉ニ應
スルコト又ハ應セサルコトヲ同期限内ニ郡長ニ届出ヘシ
第二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サハルトキハ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

町村ノ選舉ニ應スル大地主ハ第八條第二項ノ權利ヲ有スル者ト雖ニ重ニ其權ヲ行フコト
ヲ得サルモノトス

第二十條 議員ノ當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サハル者アルトキハ郡長ハ七日以内ニ更
ニ選舉ヲ行ヒ又ハ町村長ニ命シテ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第二十一條 當選人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ
第二十二條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ
之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

第二十三條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セサリシコト發覺スルトキハ其當選ハ無効
トス

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第二十四條 郡會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議
決ヲ以テ之ヲ郡長ニ通知スヘシ

第二十五條 郡會議員被選權ノ有無及選舉ノ効力ハ郡參事會之ヲ裁決ス
郡參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ
一 郡ノ歳入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ヲ認定スル事
 三 郡有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ質入借入ノ事
 四 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
 五 郡有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事
 其他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス
 第二十七條 郡會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得
 第二十八條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ
 郡會ハ其郡ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付郡長又ハ府縣知事ニ建議スルコトヲ得
 第二十九條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス
 第三十條 郡會ハ郡長ヲ以テ議長トス
 郡會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長代理者一名ヲ互選スヘシ
 議長及議長代理者共ニ故障アルトキハ臨時議長代理ヲ互選スヘシ
 第三十一條 郡長若ハ特ニ郡長ノ委任ヲ受ケタル郡吏員ハ郡會ノ議事ニ參與スルコトヲ得
 但議決ニ加ハルコトヲ得ス
 前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ
 第三十二條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其他必要アルトキハ其事件ニ限リ臨時會ヲ

開クコトヲ得

郡會ハ郡長之ヲ招集ス若議員二分ノ一以上ニ於テ臨時ノ招集ヲ請求スルトキハ之ヲ招集
 スヘシ招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス
 郡會ハ郡長之ヲ開閉ス
 第三十三條 郡會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但
 同一ノ議事ニ付開會再回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス
 第三十四條 郡會ノ議決ハ過半數ニ依ル可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
 第三十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾
 ヲ經ルニ非サレハ郡會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス
 第三十六條 郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第十八條四ヨリ六ニ至ル規定ニ依ルヘシ
 第三十七條 郡會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス
 一 郡長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
 二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ
 議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用非スシテ其可否ヲ決スヘシ
 第三十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ並ニ延
 會シ議場ノ秩序ヲ保持ス
 第三十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用非及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第四十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得
第四十一條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧嘩ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第四十二條 郡長若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第四十三條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隷屬シテ庶務ヲ掌理セシム
書記ハ議長之ヲ選任ス但郡吏員ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第四十四條 郡會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前郡會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第四十五條 郡會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ施行ス

ヘシ

第三章 郡參事會、吏員及委員

第四十六條 郡ニ郡參事會ヲ置キ郡長及名譽職參事會員四名ヲ以テ之ヲ組織ス

名譽職參事會員中三名ハ郡會ニ於テ其議員中ヨリ互選シ一名ハ府縣知事ニ於テ郡會議員若ハ郡内町村ノ公民中ヨリ選任スヘシ

第四十七條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ會員ニ於テ臨時議長代理ヲ互選スヘシ

第四十八條 郡會ハ每通常會ニ於テ郡會ノ互選シタル名譽職參事會員ノ補充員二名ヲ互選シ其名譽職參事會員ノ闕員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十九條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

郡會ノ互選シタル名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ

第五十條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
- 二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ招集スルノ暇ナシ

第三類 第二章 府縣郡市町村 水利組合

ト認ルトキ郡會ニ代テ議決ヲ爲ス事

三 郡會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ郡有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

四 郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
五 郡長其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事

六 郡長ヨリ發スル郡會議案ニ付郡長ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事
七 臨時必要アルトキ郡ノ出納ヲ検査スル事

其他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第五十一條 郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス

第五十二條 郡參事會ハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ

第五十三條 郡參事會ハ議長又ハ其代理者及會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第五十四條 郡參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付郡參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第四十六條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第五十五條 町村制ノ規定ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其事件ヲ管理スヘキ郡參事會ヲ指定スヘシ二府縣以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第五十六條 郡長ハ郡會及郡參事會ノ議決ヲ施行シ及郡有ノ財産及營造物ヲ管理シ並ニ郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス
郡ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ郡長ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中郡長又ハ參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ其旨ヲ記入スヘシ

第五十七條 郡會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ應セサルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル迄郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得
非常事變ニ際シ郡參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラ

サルトヤハ郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得
本條ノ處分ハ次回ノ郡會會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十八條 郡ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ外郡會ノ議決ニ依リ郡ノ費用ヲ以テ郡有
財產又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給郡吏員ヲ置クコトヲ得但其郡吏員ハ
他ノ郡吏員ニ準シ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス
前項郡吏員ノ給料手當退職料等ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其
金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十九條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ郡事務ノ一部ヲ調査セシ
メ又ハ郡有財產及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得
委員ハ郡會ニ於テ之ヲ選舉ス其選舉ノ方法及任期ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル
委員ハ名譽職トス

第四章 郡ノ會計

第六十條 郡有財產及營造物管理ノ費用郡會郡參事會及委員ノ費用第五十八條ノ郡吏員ノ
給料退職料其他諸給與及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ其郡ニ於テ之ヲ
支辨スヘシ

第六十一條 郡會議員名譽職參事會員及委員ニハ旅費及日當ヲ給スルコトヲ得但日當ハ一
日五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十二條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財產ヨリ生スル收入其他雜收入ヲ以テ充ツルモ
ノ、外ハ郡内各町村ニ分賦ス各町村分賦ノ割合ハ各町村前年度ノ直接國稅府縣稅ノ徵收
額ニ據ル
各町村分賦ノ額ハ各町村ニ於テ之ヲ町村ノ豫算ニ編入シ町村稅トシテ徵收シ其總額ヲ郡
金庫ニ納ムヘシ

第六十三條 郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ郡會ノ議決ニ依リ
該部分ノ町村ニ對シ通常分賦額ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ增課スルコトヲ
得

第六十四條 郡ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ其郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ
要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ郡内町村ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限り勅令
ノ定ムル所ニ依リ郡會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得
郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ
郡債償還ノ初期ハ二年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了
スヘシ

歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還
スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但郡參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス
第六十五條 郡長ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘシ但郡ノ會計年度ハ政府ノ

會計年度ニ同シ

豫算ハ郡會ノ議決ニ付スルノ前郡參事會ノ審查ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得第六十六條 豫算ハ毎年郡會ノ議決ヲ取リ之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其郡有財産表ヲ提出スヘシ

第六十七條 歲入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ郡長ニ於テ郡參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十八條 郡ノ收支命令ハ郡長之ヲ發スヘシ

第六十九條 會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサル

トキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條 郡ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クトモ一回臨時検査ヲ爲スヘシ檢査ハ郡長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ニハ郡參事會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第七十一條 決算ハ會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ郡長ニ提出シ郡長ハ郡參事會ヲシテ之ヲ検査セシメ次回ノ通常郡會ノ認定ニ付スヘシ決算報告書並ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ決算ハ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第七十二條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第七十三條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郡ノ行政ニ關スル府縣知事又ハ府縣參事會ノ處分若ハ裁決ニ不服ナル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得郡ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第七十四條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第七十五條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ直ニ府縣知事ノ裁決ヲ請フヘシ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十六條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ郡ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十七條 郡會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ
第七十八條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セサル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決

セサル議案歲入出豫算ニ係リ府縣知事ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十九條 府縣知事ハ郡ノ歲入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其郡ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十條 郡會ハ內務大臣之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ改選スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス

郡委員ハ郡會ノ解散ニ依リ解職スルノ限ニ在ラス但改選郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ改選スルコトヲ得

郡會解散ノ後改選結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十一條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
一 新ニ郡債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

第八十二條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
一 郡有不動産ノ賣却讓渡並ニ賃入書入ノ事

二 第六十三條ニ依リ郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事
三 第六十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第八十三條 郡内總町村ノ共有ニ屬スル財産及營造物ハ郡内總町村ノ聯合又ハ組合ヲ以テ
設立セル小學校ヲ除クノ外此法律施行ノ日ヨリ郡ノ所有ニ歸シ其權利義務トモ同時ニ郡
ニ移ルモノトス

第八十四條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ府縣參事會ニ屬スル
職務ハ府縣知事行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之
ヲ行フヘシ

第八十五條 島司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第八十六條 此法律ニ依リ始メテ議員ヲ選舉スルニ付郡會及郡參事會ノ職務ハ郡長ニ於テ
之ヲ行フヘシ

第八十七條 町村制施行ノ爲ニ定ムル直接税ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦適用ス

第八十八條 此法律施行ノ後ハ町村制第百二十六條第三ニ定ムル附加税徵收ノ許可ハ地租
七分ノ一、五十四分ノ三ニテ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス

第八十九條 此法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣
知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

二十三年法律
第四十八號
(第百十五)
ヲ以テ行政裁
判法ヲ定ム

第十七號布告
ハ初編第五十
六ニ掲ク

第九十條 明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法
律施行ノ地ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十一條 内務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ

〔二〕府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選舉區域地方稅
收支豫算地方稅財產備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣ノ急施
事業ニ關スル件 第六十四ノ
一項ニ掲ク

第六十六 市制町村制

〔二〕市町村名及市役所町村役場位置變更ニ關スル件 明治二十二年八月三十日
法律第七十七號

朕市町村名及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
内務大臣 伯爵 西鄉從道

法律第七十七號

第一條 市町村ノ名稱ヲ變更シ若ハ村ヲ町ト爲シ町ヲ村ト爲サントスルトキハ關係アル
市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三類 第二章 府縣郡市町村 水利組合

第二條 市役所町村役場ノ位置ヲ變更スル市町村會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケヘシ
 〔二〕行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件 明治二十三年五月二日公布
 朕行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽

勅令第七十一號

明治二十三年四月三十日 内閣總理大臣伯爵山縣有朋 司法大臣伯爵山田顯義

二十三年法律
第二百九十九號
第一項(第九)

- 行政事務又ハ司法事務ニ關シ郡區ヲ以テ其區域ヲ定メタルモノニシテ市制ヲ施行シタル場合ニ於テハ特ニ市ノ屬スヘキ區域ヲ定メタルモノヲ除クノ外左ノ區別ニ隨ヒ其所屬ヲ定ムルモノトス
- 一 區ヲ市トナシタルモノニ付テハ市ノ區域ニ依ル但東京市京都市大阪市ニ在テハ仍區ノ區域ニ依ル
 - 二 郡内ノ町村ヲ市トナシタルモノニ付テハ仍其從前屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス
 - 三 二郡以上ニ渉ル町村ヲ合シテ市トナシタルモノニ付テハ其人口ノ最モ大ナル部分ノ屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス
 - 四 此勅令發布前ニ行ヒタル選舉ハ第三ノ規定ニ合ハサルモノアルモ其當選者ニ限リ

二十二年法律
第七號(初編)
第五十七(二)揭

改選ヲ要セス

區域變動ノ爲メ關係ノ郡ヨリ選舉スヘキ縣會議員ノ數ニ増減ヲ爲スヘキ必要アルトキハ本年ノ通常縣會ノ議決ヲ取り明治二十二年法律第七號第二條第二項ニ依リ處分スヘシ

〔三〕市町村制ニ記載スル最終調査ノ人口 明治二十三年七月十四日 内務省令第三號
 市町村ノ人口ハ毎年十二月末日調査ノ現在數ニ依リ翌年官報ヲ以テ告示シ之ヲ市町村制ニ記載スル最終調査ノ人口トス但告示ノ後市町村ヲ廢置分合シ又ハ其境界ヲ變更スルトキハ次回ノ告示ヲ爲ス迄ノ間其處分ヲ爲シタル當時ノ調査ニ依ルモノトス

〔四〕岐阜縣岐阜及山梨縣甲府ヲ市制施行ノ地ニ指定ス 明治二十二年六月十日 内務省告示第十八號

〔五〕鳥取縣鳥取ヲ市制施行ノ地ニ指定ス 明治二十二年九月十一日 内務省告示第二十四號

〔六〕西洋形船舶海員雇入雇止手数料ヲ市町村ノ收入トス 第一項(二百二)

〔七〕島嶼ニ於ケル西洋形船舶海員雇入雇止手数料ヲ市町村ノ收入トス 第二項(二百二)

〔八〕市町村制施行ノ地ノ所得稅ニ關スル件 第一項(二百二十三)

〔九〕府縣會規則市町村制衆議院議員選舉法ニ記載ノ官吏 第三項(六十二)

● 同指令

● 戶主非戶主ノ所得稅ヲ合算シテ納付スルトキ戶主非戶主公民權有無ノ件 第三百二十三ノ同指令ノ部ニ掲ク

第六十七 東京市區改正條例中刪除
明治二十三年八月十五日公布
勅令第六十九號
朕東京市區改正條例中削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽
明治二十三年八月十四日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
內務大臣伯爵西鄉從道
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十九號
東京市區改正條例中第八條ヲ削除ス

〔一〕東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區內清酒輸入規則ニ關スル件
明治二十三年八月十五日公布
勅令第七十號

朕東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區內清酒輸入規則ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽
明治二十三年八月十四日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
內務大臣伯爵西鄉從道
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第七十號

第一條 東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區內清酒輸入規則ノ規定ニ依リ東京府知事ニ屬スル事務ハ東京市參事會ニ之ヲ屬セシメ東京府市部會ニ屬スルモノハ東京市會ニ之ヲ屬セシム

第二條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府市部ノ基本財産トシテ下付シタル河岸地ハ之ヲ東京市ニ引繼クヘシ

第三條 明治二十三年度東京市區改正ノ收支豫算ニシテ東京府市部會ノ議定ヲ經タルモノハ東京市ニ於テ之ヲ存續スヘシ

〔二〕東京市區改正委員會組織權限
明治二十一年八月十七日
勅令第十四號
東京市區改正委員會ノ組織權限ヲ定ムルコト左ノ如シ

東京市區改正委員會組織權限

第一條 東京市區改正委員ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長

委員

- 內務省高等官 三人
- 大藏省高等官 二人
- 陸軍省高等官 二人
- 農商務省高等官 二人

第三類 第二章 府縣郡市町村 水利組合

逓信省高等官

二人

警視廳高等官

二人

東京府高等官

二人

東京府(區部會)議員

十八人 二十三年八月十五日閣令第六號ヲ以テ東京府區部會ヲ東京市會ト改ム

幹事

書記

第二條 委員長ハ内閣ニ於テ之ヲ特選シ委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス但東京府(區部會)議員ハ區部會ニ於テ之ヲ選定ス同上

第三條 幹事ハ委員長ニ於テ委員中ヨリ之ヲ選定シ委員長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第四條 書記ハ委員長之ヲ命ス上官ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス 二十二年五月十八日閣令第十七號ヲ以テ改正ス

第五條 委員長ハ議事ヲ整理ス

委員長事故アルトキハ其指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條 委員會ノ議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第七條 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ可否スル所ニ依ル

第八條 委員會ハ東京市區改正審査會ニ於テ議定シタル方案ニ據リ特ニ其改正ヲ要スルモノ、ミテ議定シテ市區改正ノ設計トナシ及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定ス

第九條 委員會ハ市區改正ニ關スル事項ニ付各處ニ照會往復スルコトヲ得

第十條 委員會ハ市區改正ノ實施ニ方リ委員ヲ派遣シテ之ヲ檢察セシメ設計ニ違フモノアレハ(東京府知事)ニ照會シテ其改正ヲ要求シ時宜ニ依リ内務大臣ニ具狀スルコトヲ得 二十三年八月十五日閣令第六號ヲ以テ東京府知事ヲ東京市會ト改ム

○

第六十八 水利組合條例 明治二十三年六月二十一日公布

法律第四十六號

朕水利組合條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
内務大臣 伯爵西鄉從道

法律第四十六號

水利組合條例

第一章 總則

第一條 府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖ニ市町村以上ニ涉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若ハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス

一 普通水利組合

二 水害豫防組合

第三條 普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第四條 水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲ニスル堤防浚渫沙防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ

第三類 第二章 府縣郡市町村 水利組合

事業ニ屬セサルモノ、爲設置スルモノトス

第五條 水利組合ハ組合規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

第六條 二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設クルノ必要アルトキ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ内務大臣ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第二章 組合ノ設置及廢止

第七條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員トス但舊慣アルモノハ其舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第八條 普通水利組合ハ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

一 組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ情願アリタルトキ

第九條 前條ノ情願ニハ市町村長ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經、市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十條 第八條ノ情願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條 創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及フトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシメ其集會ヲ以テ總會議ニ充ルコトヲ得

前項ノ總會議ハ關係者若ハ總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半数ニ依ル

第十二條 創立委員ハ關係者ノ總會議ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ認可ヲ爲ストキハ同時ニ組合設置ノ旨並其管理者タルヘキ郡長若ハ市町村長ヲ告示スヘシ

第十三條 普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受クヘキ地ニ就キ區域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但舊慣アルモノハ舊慣ニ依リ其區域ヲ畫スルコトヲ得

前項ノ區域内ニ土地家屋ヲ所有スル者ハ總テ其組合員トス

第十五條 水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受クヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ

受クルモノハ之ヲ組合區域内ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テハ其部分ニ限り土地所有者ノミ組合員タルモノトス

第十六條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ開キ之ヲ定ムヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ
創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ之ヲ組合員ノ總會ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ヲ適用ス

第十八條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ意見ヲ開キ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ第十三條但書ノ例ニ依ル

第三章 水利組合ノ會議

第十九條 水利組合ニ組合會ヲ置ク

第二十條 組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選舉スヘシ議員ノ數、資格、任期及選舉ノ方法ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ
一 組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員二分ノ二以

上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

二 組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事

三 組合費及夫役現品ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四 組合ニ屬スル財産ノ賣買、交換、讓渡、讓受、並質入、書入ヲ爲ス事

五 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

第二十二條 組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルコトヲ得

第二十三條 議員選舉ノ効力若ハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之ヲ議決スヘシ組合會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域、郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ組合會ノ議決ニ不服アル者及郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ其關係參事會ニ於テ協議ノ上主管ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十四條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トシ管理者故障アルキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條 組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

組合會ハ管理者之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スヘシ
招集狀ハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外逕クモ會議ノ三日前ニ之ヲ發スヘシ

第二十六條 組合會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス

第二十七條 組合會ノ議決ハ過半数ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十八條 組合員少數ノ組合ニ於テハ組合會ヲ設ケス組合規約ノ規定ニ依リ組合員總會ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第四章 組合ノ管理

第二十九條 水利組合ハ其組合ノ區域一市町村内ニ止ルトキハ其市町村長之ヲ管理シ數市町村又ハ郡市若ハ數郡ニ涉ルトキハ府縣知事ニ於テ便宜郡長又ハ市町村長ノ内一名ヲ指定シ之ヲ管理セシムヘシ

第三十條 水利組合ノ收入及會計ノ事務ハ郡長ニ於テ管理者タル場合ハ郡ノ會計吏ヲシテ兼掌セシメ市町村長ニ於テ管理者タル場合ハ其市町村收入役ヲシテ兼掌セシムヘシ
組合區域數市町村ニ涉ルトキハ各市町村收入役ハ管理者ノ求ニ依リ組合費ノ徵收ヲ爲スヘシ

第三十一條 管理者タル郡長又ハ市町村長ニ於テ行フ職務ニ關シ組合ノ爲特ニ要スル費用

ハ其組合ノ負擔トス組合ノ收入及會計事務ヲ兼掌スル郡會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ行フ職務ニ關スル費用亦同シ

第三十二條 管理者職務ノ概目左ノ如シ

一 組合一切ノ事務ヲ管理スル事

二 組合會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ組合會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フヘシ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其組合ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉ルトキ又ハ郡長ニ於テ管理者タルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 組合ノ權利ヲ保護シ收入金其他ノ財産ヲ管理シ歲入出豫算其他組合會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四 諸證書及其他書類ヲ保管スル事

五 外部ニ對シテ組合ヲ代表スル事

第三十三條 管理者ハ特ニ組合會ノ委任ヲ受ケ又ハ其議決ヲ經タル事件ニ非サレハ組合ノ爲契約ヲ結ヒ又ハ義務ヲ負擔スヘキ證書若ハ委任狀ヲ發スルコトヲ得ス

第三十四條 組合ハ必要ナル委員又ハ附屬ノ僱員ヲ置クコトヲ得委員ハ組合會之ヲ選任シ僱員ハ管理者之ヲ任用ス

委員又ハ僱員ノ爲ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス

第五章 組合ノ會計

第三十五條 普通水利組合費ハ土地ニ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋ニ賦課スルモノトス但舊慣アルモノハ專ラ土地ニ賦課スルコトヲ得又第十五條ノ組合員ニ對シテハ土地ニ限リ之ヲ賦課スヘシ

第三十六條 組合費ハ組合規約中ニ豫メ連年据置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十七條 組合費豫算額ノ剩餘ハ之ヲ積金ト爲スノ方法ヲ設クルコトヲ得其積立並支出ノ方法ハ組合會ノ議決スル所ニ依ル

第三十八條 組合ハ其事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得但水害豫防組合ニ在テハ夫役ニ限リ其区域内ニ住居スル一般ノ人民ニ賦課スルコトヲ得

夫役現品ニ關スル規定ハ組合規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第三十九條 普通水利組合費ノ賦課額ハ組合會ノ議決ニ依リ水害豫防組合費ノ賦課額ハ府

縣知事ニ於テ其關係郡市參事會ノ意見ヲ聞キ其事業ヨリ受クル利益ノ厚薄ニ依リ區域ヲ限リ其割合ニ差等ヲ設クルコトヲ得

第四十條 組合費ノ徵收及滯納處分ハ市町村稅ノ例ニ依ル

第四十一條 組合ハ天災事變ノ爲止ムヲ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ負債ヲ起スコトヲ得

組合ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決スルトキハ其借入及償還ノ方法及期限並利足ノ定率ヲ定ムヘシ

年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ルノ限ニアラス但組合會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四十二條 管理者ハ每會計年度ノ歳入出豫算ヲ調製シ會計年度前ノ通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

第四十三條 歳入出豫算ハ組合會ノ議決ヲ經タル後之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四十四條 決算ハ第三十條ノ會計吏又ハ收入役ニ於テ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併テ之ヲ管理者ニ提出シ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ次回ノ通常組合會ノ認定ニ付スヘシ
決算報告書並之ニ關スル議決ハ管理者ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

二十一年法律
第一號(初編)市
制第五十七條及
町村制第百二條
條參看

第六章 水利組合ノ監督

第四十五條 水利組合ハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス其郡長又ハ市長ニ於テ管理スル場合ニ於テハ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣之ヲ監督ス

第四十六條 此法律中別段ノ規定アルモノ、外管理者ノ處分ニ不服アル者ハ組合所在地ノ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ管理者ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ第二十三條第三項ノ例ニ依ル

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十七條 賦課金納付ノ義務ニ關スル訴願ハ其徵收令書ヲ交付シタル日ヨリ三箇月以内ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ屬セサル事件ニ關シ訴願セントスル者ハ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

第四十八條 水利組合會ハ内務大臣ニ於テ之ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命スルトキハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ選舉スヘキコトヲ命スヘシ

第四十九條

監督官廳ハ組合事務ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事業ノ公益ヲ害セサルヤ否ヤヲ監視シ兼テ其會計事務ヲシテ錯雜セサラシムルコトヲ務ムヘシ監督官廳ハ之カ爲組合事務ノ報告ヲ爲サシメ並實地ニ就テ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

組合ニ於テ公益ヲ害スヘキ工事ヲ執行セルカ又ハ正當爲スヘキ工事ヲ執行セルカ爲公益ヲ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ其工事ノ變更又ハ執行ヲ命スルコトヲ得若シ其命令ニ服從セサルトキハ府縣知事ニ於テ之ヲ執行シ其實費ヲ追徵スルコトヲ得

第五十條 組合會ニ於テ組合規約ノ改正追加及普通水利組合區域變更ノ議決ヲ爲シ又ハ不動産ノ賣却、交換、讓渡又ハ質入、書入ノ議決ヲ爲シ又ハ第三十九條ニ依リ普通水利組合費ノ賦課額ニ差等ヲ設クルノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

組合會ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決シタルトキハ借入及償還ノ方法及期限並利息ノ定率ヲモ併テ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

其他組合規約中ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項ヲ增加スルコトヲ得

第五十一條 水害豫防組合關係者總會議又ハ水害豫防組合會ニ於テ其議決スヘキ事項ヲ議決セサルカ爲公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會若ハ郡參事會ニ付シ代テ決定セシムルコトヲ得關係者總會議ニ出席セヌ又ハ議員ヲ選舉セヌ若ハ議員ノ當選ヲ承諾セサル爲總會議又ハ組合會成立ニ至ラサルトキ亦同シ

水害豫防組合會ニ於テ組合事業ノ爲必要ナル費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ

缺クトキハ管理者ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第五十二條 水利組合關係者總會議ニ於テ議決シタル組合規約法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ其理由ヲ示シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第五十三條 監督官廳ハ出水ノ爲危險アルトキ水利組合ニ對シ防禦ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ郡長市町村長又ハ警察官ハ組合區域内ニ住居スル一般ノ人民ヲ指揮シテ防禦ニ從事セシメ及必要ナル現品ヲ收用スルコトヲ得但現品ハ追テ組合ノ費用ヲ以テ相當ノ賠償ヲ爲サシムヘシ

第五十四條 水利組合管理者及其事務ニ服従スル者ニ對シ懲戒處分ヲ要スルトキハ町村制第百二十八條ヲ適用シ其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル爲組合ニ賠償スヘキコトアルトキハ町村制第百二十九條ヲ適用ス

第七章 附則

第五十五條 府縣參事會、郡參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ從來ノ慣行ニ依リ控訴院ニ於テ之ヲ行

二十三年法律
第四十八號
(第二百十五)

ヲ以テ行政裁
判法ヲ定ム

フヘシ

第五十六條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其成立ニ至ル迄ノ間管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十七條 此法律ニ依リ設置スル水利組合ニ於テ舊町村會又ハ水利土功會ノ事業ヲ繼續スルトキハ其既成ノ工事及所屬ノ財産ハ總テ其組合ニ引繼クヘキモノトス

第五十八條 此法律ハ市制町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之ヲ施行ス

○第四類

○第一章 土地 皇室及官有財產 水道

第六十九 土地臺帳規則

〔一〕土地臺帳規則施行細則 明治二十二年四月一日
大藏省令第六號
勅令第三十九號土地臺帳規則施行細則左ノ通り相定ム

土地臺帳規則施行細則

- 第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價地租所有者及質取主ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ
- 第二條 土地臺帳記載ノ所有者質取主ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ
- 第三條 土地臺帳ノ貯本ヲ請求セントスルモノハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ府縣廳町村ハ島廳郡役所ニ申出ヘシ
- 第四條 土地臺帳ノ貯本ヲ請求シタルトキハ左ノ雛形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ

用紙美濃紙		土地臺帳	
地目	土地臺帳ノ番號	字	地番
別	段	國	
價	地	市郡	
外書	内書	村町	
有	所	地	租
期	年	開	租
免	地	荒	

第四類 第一章 土地 皇室及官有財產 水道

切 本		租 地		租 目	段 別	住 者 所 在 氏 名
明 治	年	月	日			
主 任 官 氏 名 印						

規入規出田納
規則ハ初編第
百三十二ノ一
項ニ掲ク

〔二〕土地臺帳謄本手数料收納取扱方 明治二十二年六月七日
大藏省訓令第四十號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
土地臺帳謄本手数料收納方ハ本年七月一日以降規入規出田納規則第十六條但書ニ據リ府縣稅部出張所ニ於テ取扱ハシムヘシ

〔三〕土地臺帳様式 明治二十二年七月一日
大藏省訓令第四十九號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
本年三月當省訓令第十一號第一項ノ土地臺帳ハ別紙様式ニ倣ヒ漸次新調シ明治十七年當省第八十九號違別冊第十九號様式ニ據リ收據地價一段歩當表ヲ調製添付シ置クヘシ
但様式ハ當省主稅局ヨリ之ヲ送付ス(別紙略ス)

〔四〕土地臺帳謄本手数料納付及納入取扱方 明治二十二年七月二十九日
大藏省訓令第五十四號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
土地臺帳謄本手数料納付方ノ儀ハ納入ヲシテ現金ヲ收稅部出張所へ上納セシメ收入官吏ヲシテ之ニ納付書ヲ添ヘ金庫へ納入セシムヘシ

〔五〕土地分合筆取扱手續 明治二十年四月十日
大藏省訓令第二十五號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
土地分合筆取扱手續左ノ通心得ヘシ
土地分合筆取扱手續

第一條 一筆ノ土地ヲ分割シ二筆以上ノ土地ヲ合併セントスル者ハ其段別地價及野取圖ヲ添ヘ戶長役場ヲ經由シ郡區役所へ出願スヘシ

二十二年訓令
省訓令第十三
號(第二百六

ノ六項)同年
大藏省訓令第
六十七號(同
七項)參看

第二條 戶長ハ第一條ノ願書ヲ受領シタルトキハ稟書ヲナスヘシ若シ段別地價ノ分配ニ於テ不適當ト視認ムルコトアルトキハ實地臨檢ノ上其旨ヲ説示シ承服セサルモノハ意見書ヲ作り郡區役所ヲ經由シ地方廳へ具申セシムヘシ

第三條 地方廳ハ第二條ノ具申書ヲ受領シタルトキハ規定ノ手續ニヨリ更ニ實地審査シ適當ノ地價ヲ定メ之ヲ所有者ニ示達スヘシ

〔六〕島廳及收稅部出張所地租事務取扱手續 明治二十二年六月二十日
大藏省訓令第四十五號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
本年三月當省訓令第十五號島廳郡役所地租事務取扱手續ヲ本年七月一日以降島廳及收稅部出張所地租事務取扱手續トシ第一條第二條第三條第八條左ノ變更正ス

第一條 地租ニ關スル願書ハ其筆眼字番號地目段別等級地價地租及所有者氏名ヲ土地臺帳及地圖ニ照查シ主任官之ニ檢印シ處分ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 土地ノ分合筆ニ關スル願書ニシテ段別地價ノ分配合併其當ヲ得ル者ハ收稅部出張所ニ於テハ其處分ノ手續ヲナシ島廳ニ於テハ直ニ之ヲ許可スヘシ

第三條 前二條ノ指令書ハ市町村長ヲ經テ下附ノ手續ヲ爲シ直ニ土地臺帳地圖及地租臺帳ヲ整理スヘシ

第四條 土地所有ノ移轉又ハ買入及其解約ニ係ル登記所ノ通知ヲ得タルトキ竝ニ住所氏名異動ノ届出ヲ得タルトキハ直ニ土地臺帳ヲ訂正スヘシ 二十二年三月二十九日大藏省訓令第十四號原文

第五條 前條ノ訂正ヲ經タルモノハ納期毎ニ納租者異動表ヲ作り各納期三十日以前之ヲ町村長ニ通報スヘシ其以後納期末日迄ニ係ル者ハ其時々之ヲ通報スヘシ 同上

第六條 土地臺帳ノ謄本ヲ開フ者アルトキハ即日之ヲ下付スヘシ 同上

第七條 地租ノ前年ニ過リ徵收スヘキ者ハ明治十七年當省第八十九號違地租帳簿様式第一號付屬表ニ準シ追加地租帳

ヲ調製シ之ニ記入スヘシ同上

第八條 毎年一月ニ於テ土地課税總計上ニ就キ前年中ノ異動ヲ加除シ之ヲ地租課税ニ照合シ明治二十年當省訓令第五十號租稅計算整理順序付屬第一號一乃至四ノ様式ニ準シ地租表ヲ調製シ二月十五日限リ府縣知事ニ申報スヘシ但地租追加ニ係ルモノモ本表ト共ニ申報スヘシ

〔七〕土地課税規則第三條ニ依リ登記通知方 第二百六ノ九項ニ掲ク

● 伺指令

● 土地課税本及主任官ノ件問合回答 明治二十二年四月四日 兵庫縣收稅長問合

土地課税本ハ其地所有者ノ外ハ下ケ渡ス限リニアラサルカ又之ニ主任官トアルハ知事郡長ノ意カ
(大藏省主稅局) 同答 明治二十二年四月八日(電報)

土地課税本ハ御見込ノ通り主任官ハ右事務取扱判任官ヲ云フ

● 誤認土地訂正方ノ件伺指令 明治二十三年九月四日 石川縣伺

土地ノ課税ヲ發見シ其訂正手續ハ去ル明治十一年六月御内達ノ旨趣ニ依リ取扱來候處先般會計法實施相成候得共誤認土地ニ係ル除租下戻金ノ如キハ該法第十八條ノ範圍外ト視認メ從來ノ通例發見ノ當年ヨリ賦除租取扱可然哉
(大藏省) 指令 明治二十三年九月二十五日

誤認土地訂正方ノ件ハ課税ノ當年ニ溯リ訂正スヘク其地租下戻方ハ會計法第十八條ニ賦租追徴方ハ國稅徵收法第十七條ニ據リ取扱ヘシ但明治十一年六月地租改正事務局長大藏卿連署内達ハ消滅ト心得ヘシ

〔第七十一〕 北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關スル件 明治二十三年三月二

勅令第五 十八日公布

朕北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月二十七日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第五十五號

北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關シテハ從前ノ規則ニ依ラシメ會計法第二十四條ニ規定スル競争ノ方法ヲ用ヒス

〔一〕 北海道土地拂下規則第十條ヲ改正ス 明治二十二年六月二十八日(同二十九日公布)

明治十九年六月閣令第十六號北海道土地拂下規則第十條左ノ通改正ス

第十條 素地代價ハ千坪ニ付金壹圓トシ成功ノ後拂下クヘシ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス

〔二〕 北海道土地下拂規則第十二條ヲ廢ス 明治二十三年十二月四日

明治十九年六月閣令第十六號北海道土地拂下規則第十二條ヲ廢ス

〔第七十一〕 官有地特別處分規則 明治二十三年七月二十二日公布

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第四類 第一章 土地 皇室及官有財產 水道

會計法ハ初編
第三百三十二
掲ク

閣令第十六號
ハ初編第六十
二ノ二項ニ掲
ク

明治二十三年七月二十一日

勅令第三百三十五號

內務大臣伯爵西郷從道

官有地特別處分規則

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

- 一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ
 - 二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡ストキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス
 - 三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ温泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡ストキ
 - 四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡ストキ
- 第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

〔一〕官有地特別處分規則ニ依リ官有地ヲ賣渡又ハ貸渡サントスルトキ取扱方 明治二十三年十月二十日

內務省訓令第三十七號
七號北海道廳府縣

本年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地ヲ賣渡シ又ハ貸渡サントスルトキハ其總ニ於テ便宜評價委員ヲ設ケ其地價又ハ貸渡料ヲ評定セシム可シ其繼續シテ貸渡ス場合ニ於テモ亦同シ但最前貸渡ノ際豫メ地價ヲ定メ開墾成功ノ上賣渡スコトヲ許シタルモノハ此限ニアラス
前項賣渡貸渡ニシテ從來經伺ヲ要セシ分ハ評價書ヲ作り願入ノ申立金額アレハ其金額ヲモ記載シ圖面ヲ添ヘ本大臣ニ具申ス可シ

〔二〕官有地取扱規則 明治二十三年十一月二十五日公布

勅令第三百七十六號

官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十一月二十四日

內務大臣伯爵西郷從道

勅令第三百七十六號

官有地取扱規則

- 第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス
- 第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ
- 第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ
- 第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ
- 第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第七條 官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ
- 第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス
- 借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ

返地ヲ命スルコトヲ得

- 第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地満期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限りハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得
- 第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限り之ヲ許スコトヲ得
- 第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ
- 第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ
- 既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス
- 第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル
- 第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス
- 第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

(三)官ニ屬スル公有水面埋立出願ノトキ命令書下付免許方

明治二十三年十月二十日

内務省訓令第三十六號北海道廳

第一條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ出願スル者アルトキハ關係市町村會ノ意見ヲ聞キ然後技術者ヲシテ調査セシメ第二條以下ニ規定シタル命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ

第二條 公有水面埋立ノ命令書ニハ左ノ條項ヲ記載ス可シ

- 一 出願人ノ住所姓名
- 一 埋立ノ位置區域
- 一 埋立ノ目的
- 一 埋立ノ方法
- 一 著手ノ期限
- 一 成功ノ期限
- 一 既ニ免許ヲ與ヘタル後ト雖モ其成功ノ認可ヲ與フルマテノ間ハ公害ヲ生シ若クハ之ヲ發見スルトキハ地方長官ハ何時ニテモ無償ニテ命令書ノ條項ヲ改メ得ルコト
- 一 著手ノ期限ニ至テ著手セズ成功ノ期限ニ至テ成功セズ其他命令ノ條項ニ從ハサルモノハ免許ノ効ヲ失ヒ且隱匿ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルコトアラハ出願人ノ費用ヲ以テ之ヲ除カシメ又ハ豫防セシムルコト
- 一 免許權ハ官許ヲ受クルニ非サレハ擔保貸付ニ供シ又ハ他ニ移スコトヲ得サルコト
- 一 天災事變ノ爲メニ期限内ニ著手若クハ成功シ難キ事情アルモノハ其事由ノ止ミタル後二箇月内ニ出願スルニ於テハ相當ノ延期ヲ與フルコト

第三條 近所ノ便利用惡水ノ疏通ヲ保護スル等埋立ノ地位ト季節トニヨリテ公益上制限ヲ加フルノ必要アルモノハ精細ニ其任務ヲ命令書中ニ記載ス可シ

第四條 埋立成功ノ後其地所ノ道路溝渠物揚場等公共ノ用ニ供ス可キ分ハ無償ニテ官有トナス可シ其他ハ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第五條 前項官有ニ歸ス可キ地區ト出願人ノ所有トス可キ地區トハ豫メ命令書並ニ圖面ニ明記ス可シ

第六條 大土工ニハ埋立方法等ノ外精密ナル設計書ト圖面ヲ造ラシメ之ヲ命令書ニ附屬ス可シ本條ノ場合ニ於テハ埋立ノ區域ヲ數區ニ分テ著手及成功ノ期限ヲ異ニシ殘工事ノ成功ニ妨ケナク且公益ニ害ナキ限リハ其成功スル毎ニ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第七條 公有水面ヲ變シテ出願人ノ所有トナシタル後公害アルコトヲ發見スルトキハ時價ヲ以テ買收スルカ又ハ收用スルニ非サレハ回復スルコトヲ得

第八條 舊債ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ外公有ノ水面ヲ其儘使用センコトヲ出願スルモノアルトキハ前條々ノ例ニ準シ命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ料金を國庫ニ納メシム可シ

第九條 官ニ屬スル私有水面ノ埋立ハ第一條ノ手續ヲナシタル後一般ノ官有地賣貸ニ關スル規則ニ隨ヒ其地ヲ賣却又ハ貸與シテ之ヲ埋立シム可シ其使用ハ一般貸地ノ手續ニ依ル可シ

第十條 水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下付スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障礙ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十一條 何レノ場合ニ於テモ使用料額ハ五箇年ヲ期シテ定ム可シ

第十二條 凡ソ一箇所ノ場所ヲ二人以上同時ニ埋立又ハ使用センコトヲ出願スル者アルトキハ共ニ内務大臣ニ稟議シテ其指令ヲ乞フ可シ

第十三條 公有水面ノ埋立ハ公益上必要アルモノ並特別ノ理由アルモノ、外五箇年内ニ成功シ難キ場所ヲ一手ニ免許スルコトヲ得

テ後處分スヘシ其本大臣ノ指付ヲ得テ下付シタル命令發設計畫圖面ハ亦本大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ變更スル
コトヲ得ス

第七十二 官有財産管理規則 明治二十三年十一月二十五日公布

朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十一月二十四日

- 内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
- 内務大臣 伯爵 西鄉從道
- 司法大臣 伯爵 山田顯義
- 大藏大臣 伯爵 松方正義
- 陸軍大臣 伯爵 大山 巖
- 逓信大臣 伯爵 後藤藤象二郎
- 外務大臣 子爵 青木周藏
- 海軍大臣 子爵 樺山資紀
- 文部大臣 芳川顯正
- 農商務大臣 陸奥宗光

勅令第二百七十五號

官有財産管理規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地森林原野營造物家屋船舶及其ノ附屬物トス
- 第二條 官有財産ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス
- 第三條 官有財産ノ賣拂讓與交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルヘシ
- 第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ
- 第五條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財産ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル
- 第六條 官有財産ノ貸付料ハ每年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ
- 貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ
- 第七條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス
 - 第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内
 - 第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内
 - 第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内
 - 第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑、同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川、竝木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川、竝木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

トヲ得但シ官林内若ハ官廳使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ満期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

貸付ノ期限ナキモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價

第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格

第四類 第一章 土地 皇室及官有財産 水道